

令和7年度 地域保健総合推進事業

**「小規模町村保健師人材開発のための
活動報告リレー及び交流促進事業」
報告書**

令和8年3月

一般社団法人 日本公衆衛生協会

分担事業者 牛尾 裕子

(山口大学)

目 次

I 事業の概要

1 事業の目的	1
2 事業の内容	1
3 結果	2
4 考察	3
5 今後に向けた示唆	5

II 事業報告

1 小規模町村保健師活動報告リレー	
1) 第1回小規模町村保健師活動報告リレー	6
2) 第2回小規模町村保健師活動報告リレー	8
3) 第3回小規模町村保健師活動報告リレー	9
2 小規模町村保健師オンライン情報交換会	13
3 小規模町村保健師ネットワーク化の検討	
1) 情報交換会参加者アンケート調査	17
2) インタビュー調査	19
3) 調査のまとめ	20

III 本事業の実施経過

1 事業班会議	21
2 小規模町村保健師活動報告リレー	22
3 小規模町村保健師オンライン情報交換会	22
4 小規模町村保健師ネットワーク化の検討	22
5 普及啓発冊子の作成・発信	22

IV 事業組織体制

V 参考資料

1 小規模町村保健師活動報告リレー開催要領	24
1) 第1回小規模町村保健師活動報告リレー	26
プログラム、報告資料、アンケート結果	
2) 第2回小規模町村保健師活動報告リレー	33
プログラム、報告資料、アンケート結果	
3) 第3回小規模町村保健師活動報告リレー	40

プログラム、報告資料、アンケート結果

4)	【小規模町村保健師対象】活動報告リレー アンケート結果	47
2	小規模町村保健師オンライン情報交換会 チラシ、プログラム、アンケート結果、不参加者へのニーズ調査結果	49
3	小規模町村保健師ネットワーク化の検討 質問紙調査結果、質問紙調査票、グループインタビューガイド、 研究協力依頼書、同意説明文書	55

I 事業概要

1 事業の目的

市町村保健師の人材育成は、都道府県や保健所等が企画推進しているが、特に小規模町村では、中堅期以降を対象とした人材育成は十分であるとは言えない。その背景には少人数体制による研修参加困難や保健師組織の多様性等により小規模自治体の個別事情に合わせた集合研修の企画の困難さがあると考えられる。本事業の目的は、オンラインによる小規模町村保健師活動報告リレー開催などを通して、小規模町村の統括的立場の保健師が自町村の保健活動を維持発展させる方策の検討に資すること、及び小規模町村保健師ネットワークのニーズを把握し、小規模町村保健師交流プラットフォームのあり方を検討することである。本事業における小規模町村は、人口1万人未満の町村とした。

2 事業の内容

1) 小規模町村保健師活動報告リレー

- (1) 目的：小規模町村の保健師人材育成や保健師活動に係る課題と工夫を、都道府県、保健所及び他の小規模町村と共有する。
- (2) 方法：小規模町村のうち様々な背景や特徴を考慮して報告自治体を選定し、オンラインで自町村における人材育成や保健活動などの課題と工夫等の取り組みを発表してもらう。各回1時間で開催した。
- (3) 対象者：市区町村の保健師、都道府県・保健所の統括保健師・人材育成担当保健師、保健師等人材育成等に関わる方（事務職等）等

2) 小規模町村保健師オンライン情報交換会

- (1) 目的：小規模町村の保健師が、同規模町村の保健師と交流することにより、課題や工夫を共有・情報交換し、人材育成や保健業務遂行のあり方を考える機会とする。
- (2) 方法：オンライン上で小規模町村保健師が自治体規模やテーマ別にグループに分かれて、2時間の情報交換交流等を行う。
- (3) 対象者：小規模町村（概ね人口1万人未満）の保健師

3) 小規模町村保健師交流プラットフォームニーズ調査

- (1) 目的：小規模町村で働く保健師間の持続可能な交流プラットフォームの必要性・目的・機能・運営方針などを明確化する。このプラットフォームでは、保健師の成長を支える人材育成支援の基盤、同規模自治体間での情報共有や相互学習を可能にするネットワーク形成の場として機能することを目指す。
- (2) 方法：2) の情報交換会に参加した保健師を対象に実務上の困りごとや必要とする支援、インターネット環境やデジタルツールの使用経験などを調査する。あわせて、情報交換会で協力意向が得られた者を対象にインタビューを実施し、情報収集やスキル

アップの手段、求める支援やプラットフォームを継続的に使用するために必要な要素などを調査する。

(3)対象者：オンライン情報交換会に参加した小規模町村の保健師

3 結果

1) 小規模町村保健師活動報告リレー

小規模町村保健師活動報告リレー（以下「活動報告リレー」という。）3 回分の延べ申込数は、当日視聴とアーカイブ配信合わせて 656 件、内訳は都道府県 266 件（40.5%）、市区町村 240 件（36.6%）、その他 150 件（22.9%）であった。事後アンケートでは、各回概ね 9 割が各報告に対し興味深い内容や活用したい取り組みがあったと回答した。小規模町村の参加状況は、延べ 158 件、実 99 町村であった。小規模町村保健師の統括的立場以外の保健師の参加が 1 回目 52.7%、2 回目 38.9%、3 回目 65.6%であった。

○第 1 回開催 令和 7 年 8 月 5 日(火)

テーマは、「小規模町村の保健師人材育成、保健師業務の課題と取り組み（複数保健師設置小規模町村）」で、埼玉県長瀨町と福井県おおい町から報告があった。参加申込 279 件（うち小規模町村 63 件）であった。

○第 2 回開催 令和 7 年 9 月 29 日(月)

テーマは、「人口 5,000 人未満規模町村の保健師活動（課題と取り組み）」で、岐阜県東白川村と富山県舟橋村から報告があった。参加申込 241 件（うち小規模町村 70 件）であった。

○第 3 回開催 令和 7 年 10 月 16 日(木)

テーマは、「極小規模自治体における特殊状況下での非常事態へのチャレンジ」で、鹿児島県十島村と島根県知夫村から報告があった。参加申込 136 件（うち小規模町村 25 件）であった。

2) 小規模町村保健師オンライン情報交換会【令和 7 年 12 月 8 日(月)】

活動報告リレー時や当該参加者へのメール、保健指導室だより等で開催を周知し、申込を受け付けた。当初は統括的立場の保健師を対象として募集する予定であったが、活動報告リレーには統括的立場以外の保健師の参加も多かったことを踏まえ、統括的立場に限定せず募集した。内容は活動報告リレーの振り返り、グループ交流と全体共有であった。

24 人（22 町村）の参加で、40～50 歳代が 19 人（79.2%）と大半を占めたが、30 歳代も 4 人（16.7%）参加があった。係長級 9 人（37.5%）、課長補佐級 6 人（25.0%）、係員の立場の参加も 5 人あった。事後アンケート（23 人、回答率 95.8%）では、全員が満足又はとても満足だったと回答した。その理由には、同じ規模同士だからこそ分かり合えることがあると感じたなどが挙げられた。

なお、本情報交換会に参加できない理由を把握し、今後の事業周知や事業内容の検討

に活かすため、小規模町村報告リレーに参加した小規模町村 99 町村に再案内し、不参加の者にその理由を尋ねた。不参加者の回答は 21 件で、不参加の理由として必要性を感じないと回答した者は 1 件のみであり、参加したいが予算査定や議会対応と重なるなどの日時が合わないという回答が最も多く 13 件であった。交流などの参加型であることに躊躇するとの回答も 4 件あった。

3) 小規模町村保健師交流プラットフォームニーズ調査

(1) 情報交換会参加者アンケート調査結果

オンライン情報交換会参加者 24 人のうち 13 人（有効回答率 54.1%）から回答を得た。勤務年数は、1～3 年 1 人、4～10 年 3 人、11～20 年 1 人、21 年以上 8 人であった。小規模町村の保健師が日々の実践で困っていることは「知識・技術はあるが活用しきれない（53.8%）」「自信が持てない（53.8%）」が最も多く選択された。必要とする情報や支援は「いた立場の保健師とつながれる場」と全員が回答した。

保健師との交流の方法の希望としては、「オンラインでのテーマ別勉強会（84.6%）」「定期的なオンライン情報交換会（69.2%）」があげられた。望む情報や交流のテーマは「業務効率化・業務改善」「ICT・DX などの技術活用」「保健業務の効率化」「管理的立場の保健師の活動・管理業務」に高い関心が示された。

小規模町村保健師の人材育成における課題とニーズに関する自由記述回答では、一般事務の身分で雇用されたが、少人数体制であり、新任期でも専門的な指導助言が十分得られないまま、保健師の専門業務とともに事務作業も求められ困難感を感じるとの回答があった。このことから、小規模自治体では人員体制の制約により、専門業務と事務業務を併せて担わざるを得ない状況が生じている可能性がうかがえた。

(2) グループインタビュー結果

7 人の協力を得た。共通する業務の課題として、保健師数の不足や退職に伴う引継ぎの困難さ、相談相手の不在が挙げられた。一人配置・少人数体制では、専門的な相談を自治体外部に頼らざるを得ない状況があった。

情報収集・スキルアップの手段としては、インターネット検索や厚労省ホームページ、他自治体の例規閲覧、AI（ChatGPT）の活用などが挙げられたが、庁内 PC のセキュリティ制限により自席で自由に閲覧できず、私用スマートフォンなどの利用が常態化していた。

理想的な支援・仕組みとしては、同じような課題や規模の自治体同士が気軽に相談できるチャット機能、人口規模や保健師数別に整理された事例・情報の提供、補助金や他部門施策を横断的に把握できる仕組みへのニーズが高かった。

4 考察

活動報告リレーの小規模町村の参加は、人口 1 万人未満の全国 541 町村（令和 6 年度）に対し 99 町村（18.3%）にとどまった。そして、受動的参加である活動報告リレーに対し、

主体的に交流する情報交換会への参加は 22 町村であり、参加者は 24 人であった。活動報告リレーを視聴した小規模町村に情報交換会を再案内し、不参加町村に不参加理由を尋ねた結果、21 件（99 町村に対し 21.2%）の回答があり、主な不参加理由は、参加したいが予算査定や議会対応と重なるなどで日時が合わないという者が 13 件、その他、必要性を感じない、参加型には躊躇するとした者もあった。また、I 章 3. 結果 1) および 2) のとおり、小規模町村全体に対して本事業への参加数は限られていたものの、活動報告リレー・情報交換会いずれも参加者から高い評価を得た。特に小規模町村保健師からは同規模で交流する機会がほぼ皆無のため貴重な機会だったとの反応であった。

以上の結果から、小規模町村保健師に、都道府県を超えて同規模町村の保健師活動を知る機会及び交流の機会を強く求めるニーズが一定数あることが明らかになった。一方で 8 割の小規模町村の保健師は活動報告リレーへの参加がなく、双方向のやり取りがある参加型の情報交換会への参加はさらに限定された。

活動報告リレー及び情報交換会の参加が限定的であった背景として、小規模町村における保健師の人員体制や業務状況の影響が挙げられる。小規模自治体では業務多忙と人員不足のため、業務時間中に視聴のための時間を確保することが難しかった可能性がある。また視聴のためのパソコンなどの端末と通信環境を確保することが難しかった可能性もある。さらには、少人数体制で日々の業務に追われる中、メール配信される活動報告リレーの情報を目にとめ、本事業に参加する意義を理解し、参加を検討することができたかどうか懸念される。

一方、活動報告リレー参加者の 4 割近くは都道府県本庁及び保健所の保健師であった。都道府県保健師が活動報告リレーを通して小規模町村の課題に関心を向ける機会となった意義は大きい。都道府県保健師、特に保健所保健師は管内町村の保健師活動体制や活動状況をよく知る立場にあることから、当事業のような小規模町村の研修や交流の機会の重要性を理解し、小規模町村の実情に応じて、保健師がこのような機会を利用できるような後押しをすることが必要であると考えられる。

小規模町村保健師プラットフォームのニーズ調査結果からは、似た立場の保健師とつながる機会や小規模自治体での実践に役立つ情報提供、継続的な学びの機会、気軽に相談できることが求められていた。外部研修などの機会に参加する時間の確保自体が困難な小規模町村保健師にとって、時間や距離の制約を受けないオンラインでの情報交換や継続的な交流を可能とする Web 上のプラットフォームの整備が重要であり、プラットフォームには、似た立場の自治体の取り組みを知ることができるように整理した情報提供や、交流できる機能などを備えることが考えられた。

本事業は当初、統括的立場の保健師をターゲットとして計画したが、活動報告リレーに参加した小規模町村保健師の統括的立場以外の保健師の参加が 1 回目 52.7%、2 回目 38.9%、3 回目 65.6%であった。情報交換会やニーズ調査においても、自治体固有の事情により、保健師が役職や統括的立場を確保できない状況も見られ、そのような自治体こそ保健師が他自

自治体の情報や交流へのニーズが高いことが把握された。役職のない保健師が少人数体制かつ自治体内で保健福祉活動の理解が得られず苦悩する状況も把握されたことから、小規模町村を対象としたこのような事業においては統括的立場や役職者に限らずニーズがあることが考えられる。

5 今後に向けた示唆

- ・ 小規模町村保健師が小規模町村保健師同士の交流や情報交換の機会につながるための都道府県保健師による後押し

活動報告リレーへの小規模町村保健師の参加状況からは、業務多忙で研修に参加する時間確保も困難な小規模町村保健師に、このような事業の意義・有用性が十分に伝わっていない可能性が懸念された。また、少人数で多様な業務をこなす保健師にとって、日々大量に配信されるメール情報の中から本事業のような情報を目にとめる余裕もない状況も推測された。

事情をよく知る当該町村を管轄する保健所保健師が、小規模町村の個別の状況に応じて組織や保健師に対して、直接本事業のような交流や情報交換の機会を周知すること、そしてその有用性を伝え、参加可能な状況を整える後押しをすることが望ましい。またこのような機会の有用性を魅力的に伝える情報発信の工夫も求められる。

- ・ 距離や時間の制約を超えて小規模町村保健師同士の交流や情報交換を可能にする Web 上のプラットフォームの構築の必要性

小規模ならではの様々な制約を抱える小規模町村保健師にとって、各自治体の実情に応じた保健活動を推進するために、類似した状況にある町村と情報交換をしたり、保健師活動を研修のように新たに時間を確保することなく Web 上で把握できる機会は、自治体での取り組みのヒントを得るうえでも、保健師自身がモチベーションを高めるうえでも有用であることが明らかになった。そのような機会を継続的に提供するための仕組みとしてプラットフォームの構築が求められる。

本事業の成果報告概要の閲覧はこちらから。

(URL) http://publichealthnursing.med.yamaguchi-u.ac.jp/Project_report_2025.pdf

※URL をコピーしてブラウザに貼り付けてください。

II 事業報告

1 小規模町村保健師活動報告リレー

・目的

小規模町村の保健師人材育成や保健師活動に係る課題と工夫を、都道府県、保健所及び他の小規模町村と共有する。

・対象

市区町村の保健師、都道府県・保健所の統括保健師・人材育成担当保健師、保健師等人材育成等に関わる方（事務職等）等

1) 第1回小規模町村保健師活動報告リレー

(1) テーマ

小規模町村の保健師人材育成、保健師業務の課題と取り組み（複数保健師設置小規模町村）

(2) 日時

令和7年8月5日（火）14:00～15:00

※アーカイブ配信：令和7年8月8日（金）～令和7年12月7日（日）

(3) 開催方法

ウェビナー

(4) プログラム

〈ファシリテーター〉牛尾 裕子（山口大学大学院）

吹田 晋（国立保健医療科学院）

時間	内容
14:00～14:05	開会 本事業の趣旨等説明 分担事業者 山口大学大学院医学系研究科 牛尾 裕子
14:05～14:20	埼玉県長瀨町からの報告 報告者：長瀨町 健康こども課 課長 福島 陽子 コメント：埼玉県秩父保健所 担当部長 鈴木 幸子
14:20～14:35	福井県おおい町からの報告 報告者：おおい町 すこやか健康課 課長補佐 林 早苗 コメント：福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター 所長 玉井 さをり
14:35～14:55	意見交換
15:00	閉会 事後アンケート、次回開催案内

(5) 参加件数 279 件（うち小規模町村 63 件）

表 1 第 1 回参加件数内訳 (件)

所属	オンライン	アーカイブ	計
市区町村	68	38	106
（うち小規模町村）	(42)	(21)	(63)
都道府県	51	53	104
その他	35	34	69
計	154(42)	125(21)	279(63)

(6) 報告概要

2つの自治体の報告では、大きく2つの点が共通した工夫であった。1点目は、事務職や多職種の専門職との連携の工夫である。おおい町からは若狭地域保健研究会の活動が紹介された。この研究会は保健所と管内4市町で設置したもので、保健師、栄養士、事務職等が参加している。研究会において過去に、新型インフルエンザの対応について検討していたため、新型コロナウイルスの感染拡大時に、スムーズな連携につながったことが報告された。このように、小規模自治体において保健活動を推進するためには、事務職や多職種の専門職と連携した取り組みが必要である。

2点目は、保健所と連携をしながら活動を推進していることである。2つの自治体では若狭地域保健研究会や秩父地域保健師会といった、保健所と管内の自治体が連携するための基盤が整備されていた。このような会議体を維持していくことが保健所と管内自治体との連携を推進するためには大切だと思われた。また、秩父地域においては秩父保健所の保健師が管内自治体にヒアリングを行うことで、管内自治体のニーズを把握していた。こういった保健所からの小規模自治体への働きかけも重要であると思われた。さらに、個別ケース支援を通じた保健所と町との連携の様子も報告された。このように、保健師同士や他職種、地域内での情報共有や検討をする場を設けること、また、日頃の保健活動の中で保健所と管内市町村が win-win の関係で連携していくことの重要性を実感する報告内容であった。

(7) 視聴者からの感想コメント（一部抜粋）

- ・ 2つの自治体の活動報告より、小規模市町村ならではの工夫点をお聞きすることができました。事務量、事業量も多い中、その自治体ならではの工夫、多職種、他機関を巻き込んだ活動、頑張りに、日々の自分自身の活動を振り返る機会にもなりました。
- ・ 今回のご報告では、置かれている状況が似ており、共感できる部分がたくさんありました。大変な状況ではありますが、強みに目を向け、仲間同士助け合っていきたいと思いました。
- ・ やはり保健所とのつながり、普段から保健事業の評価や事例検討などを行う機会があることが、モチベーションにつながるのだなと思いました。
- ・ 保健師以外の職種と協力して事業を進めている点で共通していました。他職種が自分事

として保健事業に関わってもらうために保健所でも必要な視点だと思い活かしていきたいです。また、保健所が市町村に出向いて保健所への希望をヒアリングしたとお聞きし、オンラインでは実現できない従来の顔の見える関係の必要性も感じました。

2) 第2回小規模町村保健師活動報告リレー

(1) テーマ

人口 5,000 人未満規模町村の保健師活動（課題と取り組み）

(2) 日時

令和7年9月29日（月）15:00～16:00

※アーカイブ配信：令和7年10月2日（木）～令和7年12月7日（日）

(3) 開催方法

ウェビナー

(4) プログラム

〈ファシリテーター〉山田 洋子（岐阜県立看護大学）

石川 麻衣（群馬大学大学院）

太田 あゆ美（東京慈恵会医科大学）

時間	内容
15:00～15:05	開会 本事業の趣旨、第1回の実施状況等説明 事業協力者 群馬大学大学院 石川 麻衣
15:05～15:20	岐阜県東白川村からの報告 報告者：東白川村村民福祉課 課長兼包括支援センター長 桂川 のぞみ コメント：岐阜県可茂保健所健康増進課 保健予防係長 児玉 美智子
15:20～15:35	富山県舟橋村からの報告 報告者：舟橋村健康福祉課 保健係長 黒田 綾子 コメント：富山県中部厚生センター企画調整班 班長 浦辻 効英
15:35～15:55	意見交換
16:00	閉会 事後アンケート、次回開催案内

(5) 参加件数 241 件（うち小規模町村 70 件）

表2 第2回参加件数内訳

(件)

所属	ウェビナー	アーカイブ	計
市区町村	67	27	94
（うち小規模町村）	(53)	(17)	(70)
都道府県	58	30	88
その他	31	28	59
計	156(53)	85(17)	241(70)

(6) 報告概要

両自治体はいずれも保健師数4名である。東白川村は中山間地域、舟橋村は都市近郊のベッドタウンと、地理的条件や人口構成、住民の暮らしぶりが大きく異なっており、それぞれの地域に応じた課題や保健師活動の工夫があった。

東白川村は、少子高齢化が進む小規模自治体で、人口規模や資源が限られる中で保健師活動を展開している。保健師は多岐にわたる業務を担い、「一人小規模多機能」と表現される状況にあり、地域を深く理解し、住民一人ひとりを「まるごとみる」姿勢を大切にしている。また、学生実習を積極的に受け入れ、人材育成と人材確保の両面につなげている点が特徴である。限られた体制の中でも、地域への愛着と工夫を重ねながら、持続可能な保健師活動を実践している。

舟橋村は、都市近郊のベッドタウンとして人口増加を背景に、多様な世代への対応が求められてきた。保健師の中途採用により経験年数と役職の逆転が生じる体制の中で、各保健師の得意・不得意や関心のある分野を踏まえ、業務担当制と地区担当制を組み合わせている。週1回の係内ミーティングを通じて、業務や判断が特定の保健師に集中しないよう工夫するとともに、互いの取り組みを認め合う関係づくりを大切にしている。学生実習の対応、行事参加についても前向きに捉え、仲間づくりや人材育成、地域理解につなげている。

両自治体ともに、地域を丁寧にアセスメントし、限られた資源や人脈を活かしながら保健師活動を展開している。人材育成に対しては苦勞も多い中、熱い思いをもって取り組んでいる姿が印象的だった。

(7) 視聴者からの感想コメント（一部抜粋）

- ・小規模町村の例えが「一人小規模多機能」とわかりやすく、日々の業務の大変さが伝わった。その中で学生実習をうまく活用し、すごいと思った。
- ・学生実習を積極的に受け入れ、村の業務を経験してもらう中で、学生の視点を得る等、業務の活性化に活かしているところや新規採用職員が実習経験者ということもすばらしいと思った。
- ・経験と年齢構成に逆転現象があっても、保健師活動の目的に都度、立ち返って活動をしているところが印象に残った。人材育成の在り方として大変参考になった。
- ・類似した課題があると知ることができた。その課題に対して工夫しながら取り組む様子が伝わり、力をもらった。

3) 第3回小規模町村保健師活動報告リレー

(1) テーマ

極小規模自治体における特殊状況下での非常事態へのチャレンジ

(2) 日時

令和7年10月16日（木）15:00～16:00

※アーカイブ配信：令和7年10月21日（火）～令和7年12月7日（日）

(3)開催方法

ウェビナー

(4)プログラム

〈ファシリテーター〉 宮前 美紀（日置市役所 市民福祉部福祉課）

青木 さぎ里（自治医科大学看護学部（へき地保健師協会））

太田 あゆ美（東京慈恵会医科大学（へき地保健師協会））

時間	内 容
15:00～15:05	開会 本事業の趣旨等説明 事業協力者 東京慈恵会医科大学 太田 あゆ美
15:05～15:20	鹿児島県十島村からの報告 報告者：十島村役場住民課 村民室室長 本砥 貴子 コメント：鹿児島県鹿児島地域振興局保健福祉環境部健康企画課課長 林 しおり
15:20～15:35	島根県知夫村からの報告 報告者：知夫村役場 村民福祉課 課長 山岡 伸之 管理栄養士 松本 つばさ コメント：島根県隠岐支庁隠岐保健所 島前地域危機管理スタッフ 西 明美
15:35～15:55	意見交換
16:00	閉会 事後アンケート、情報交換会開催案内

(5)参加者数 136件（うち小規模町村25件）

表3 第3回参加件数内訳

(件)

所属	ウェビナー	アーカイブ	計
市区町村	25	15	40
（うち小規模町村）	(18)	(7)	(25)
都道府県	43	31	74
その他	12	10	22
計	80(18)	56(7)	136(25)

(6)報告概要

鹿児島県十島村と島根県知夫村の2村より、限られた資源の中で困難に立ち向かう貴重な実践報告をいただいた。

鹿児島県十島村からは、「動いて、任せて、つながる」と題し、2025年に発生したトカラ列島群発地震の災害対応について報告された。迅速な現場把握、外部への業務委託、そして住民との日頃の信頼関係により、発災後わずか40分で全島民の安否確認を完了させた。保健師が住民の声をくみ取り対策本部へ繋げたことで島外避難が実現。日頃の

「顔の見える関係性」といういざというときの専門職の介在価値を再確認させる内容となった。

島根県知夫村からは「常勤保健師ゼロ」の危機を乗り越えた体制構築について報告された。知夫村では保健師の定着が難しく、令和5年度に保健師不在という深刻な事態に陥り、看護師と管理栄養士を中心に、保健所のサポートを受けつつこのピンチを業務整理の好機と捉え改革に取り組んだ。真に保健師（専門職）がすべき業務を整理し、属人化を防ぐマニュアル化や引継ぎの工夫や、住民主体の活動の導入など体制を構築した。この前向きな姿勢が、令和7年度、常勤保健師の確保という成果につながった。「できない理由よりできる工夫を考える」という姿勢が、現状を打破する原動力となったことが伺えた。

2村の報告に共通していたのは、非常事態において、限られた人員でも「住民とともにできる最大限の可能性」を追求し、実践するという強い意志を感じた。困難な状況を単なる「ピンチ」で終わらせず、体制を見直す「チャンス」へ変える考え方が、小規模自治体における保健活動の根底にあることを深く実感させる報告内容であった。

(7) 視聴者からの感想コメント（一部抜粋）

- ・保健師として地域に出向くという普段の業務が災害時に他機関に支援してもらう際の重要な情報になるということを改めて強く感じました。
- ・災害時、行政のできることは限られているので、普段から住民を巻き込むことの重要性について大事だと感じました。
- ・保健師がいないという難局を乗り越えるために保健事業を見直し、住民の力を借りること、住民主体にシフトしたことなど学ばせていただきました。
- ・保健師が不在となった場合の実例を知り、今後、事務職員とも人材確保について意見交換を行う際の参考にしたいと感じました。

4) 活動報告リレー参加者数及び内訳

第1～3回分の活動報告リレーの参加実件数について、小規模町村に限定し、都道府県別に件数を整理した（表4）。なお、人口1万人未満の小規模町村が存在しない都道府県は兵庫県のみであるが、小規模町村が複数存在する都道府県であっても参加のない町村がみられた。

表4 小規模町村参加実件数

都道府県名	小規模町村参加数(町村)	都道府県名	小規模町村参加数(町村)
北海道	30	滋賀県	-
青森県	6	京都府	3
岩手県	3	奈良県	-
秋田県	2	和歌山県	3
宮城県	2	大阪府	-
山形県	2	兵庫県	-
福島県	1	鳥取県	-
茨城県	2	島根県	2
栃木県	-	岡山県	1
群馬県	1	広島県	1
山梨県	1	山口県	3
長野県	7	徳島県	-
埼玉県	1	香川県	-
千葉県	3	愛媛県	2
東京都	2	高知県	-
神奈川県	-	福岡県	-
静岡県	1	佐賀県	-
岐阜県	2	長崎県	1
愛知県	2	大分県	-
三重県	-	熊本県	3
新潟県	1	宮崎県	-
富山県	1	鹿児島県	4
石川県	-	沖縄県	2
福井県	4		

5) 小規模町村保健師対象のアンケートの結果

小規模町村保健師活動報告リレー参加者のうち、小規模町村保健師を対象に、オンライン情報交換会の運営方法を検討し、小規模町村保健師交流プラットフォームニーズ調査計画の参考にするため、アンケートを実施した。その結果、69人から回答を得た。所属は本庁が最も多く、次いで保健センターであった。

ICTやオンラインツールの利用状況については、「業務で利用している」が58人、「他自治体との交流・情報交換で利用している」が28人であり、多くの保健師が業務上ICTを活用していた。具体的には、Zoom、Webex、Teams等による会議や研修参加、ロゴチャットやLINE WORKSによる業務連絡、LINEを用いた住民周知等、用途に応じたツールの使い分けがみられた。一方で、利用していない理由として、知識・スキルの不足や環境整備の課題に加え、対面や電話・メールで代替可能であること、利用機会が限定的であることが挙げられた。

役立つオンライン情報やツールとしては、「保健活動事例」「業務効率化ツール」「人材育成に関する事例」へのニーズが高く、他自治体と相談・交流できる機能や研修・学会等の情報も求められていた。

また、同規模自治体との情報交換を希望する内容としては、「災害対応・備え」が最も多く、次いで「業務体制・分担」「人材確保・定着支援」「保健活動の記録・評価」など、実務に直結するテーマへの関心が高かった。

さらに、都道府県や保健所に期待する役割としては、人材確保支援や広域的な研修機会の提

供、キャリアラダーの活用支援、実践的な助言や継続的関与などが挙げられた。一方で、組織内の情報共有や保健師業務への理解不足、支援体制の不十分さなどの課題も指摘された。

6) 活動報告リレーのまとめ

第1～3回の活動報告リレーの延べ参加件数は、当日視聴とアーカイブ配信を合わせて656件であり、内訳は都道府県266件(40.5%)、市区町村240件(36.6%)、その他150件(22.9%)であった。小規模町村からの参加は延べ158件実99町村であり、人口1万人未満の全国541町村(令和6年度)の18.3%にとどまった。小規模町村が複数存在する都道府県であっても参加のない町村がみられ、参加状況には地域差があった。

各回の報告では、人口規模や地理的条件、保健師配置体制等の異なる小規模町村の実践が共有され、小規模自治体に共通する課題とともに、それぞれの地域特性を踏まえた工夫が示された。具体的には、限られた人員体制の中での人材育成、多職種や事務職との連携、保健所との協働、住民との関係づくり、非常時を見据えた体制整備など、小規模町村における保健活動を維持・推進するうえで重要な視点が共有された。

加えて、小規模町村保健師対象のアンケート結果からは、小規模町村保健師においてICTを活用した情報収集や業務遂行が一定程度進んでいる一方で、知識・スキルや環境面の課題により十分に活用できていない状況もみられた。また、保健活動事例や業務効率化、人材育成に関する情報、他自治体と相談・交流できる機会へのニーズが高く、特に災害対応や業務体制、人材確保等の実務的課題に関する情報交換が求められていた。

また、視聴者からは、類似した状況にある自治体の工夫や実践を知ることができたこと、自自治体の取り組みを振り返る機会となったこと、保健所や他機関との連携の重要性を再認識したことなどの感想が寄せられた。事後アンケートにおいても、各回概ね9割が興味深い内容であった、あるいは活用したい取り組みがあったと回答しており、活動報告リレーは、小規模町村保健師が他自治体の実践から学び、自自治体の保健活動や人材育成を考えるうえで有用な機会であったと考えられた。

さらに、小規模町村保健師の参加者には統括的立場以外の保健師も一定数含まれており、小規模自治体においては、統括的立場に限らず幅広い保健師が他自治体の実践や交流の機会を求めている状況がうかがえた。また、都道府県保健師、特に保健所保健師は管内町村の保健師活動体制や活動状況を把握する立場にあることから、小規模町村の実情に応じて、このような機会の活用を後押ししていくことが重要である。

2 小規模町村保健師オンライン情報交換会

1) テーマ

交流して見つけよう！人材育成・確保、保健師活動のヒント

2) 目的

小規模町村の保健師が、同規模町村の保健師と交流することにより、課題や工夫を共

有・情報交換し、人材育成や保健業務遂行のあり方を考える機会とする。

3) 目標

- ・参加した小規模町村の保健師が、他の保健師と自自治体の人材育成や保健業務遂行における課題と工夫を共有し、情報交換できる。
- ・参加した小規模町村の保健師が、人材育成や保健事業の遂行に関して何らかのヒントを得ることができる。

4) 対象

小規模町村（概ね人口1万人未満）の保健師

5) 日時

令和7年12月8日（月）15:00～17:00

6) 開催方法

オンライン（Zoom）

7) プログラム

時間	内容
15:00～15:08	開会挨拶・オリエンテーション
15:08～15:25	小規模町村活動報告リレー（第1回～第3回）の振り返り
15:25～16:20	グループ交流・情報交換
16:20～16:45	全体共有とまとめ
16:45～16:55	連絡事項とお願い・閉会挨拶

8) 参加者の状況

参加者数24名。情報交換会の参加人数について、所属自治体が属する都道府県別に人数を整理し、都道府県の県庁所在地に対応させて地図に分布をプロットした（図1）。



図1 都道府県別の参加者分布

オンライン情報交換会の参加者について、所属自治体の人口規模、自治体の常勤保健師数、年代、職位、統括的立場かどうか、令和7年度小規模町村活動報告リレーの視聴有無をまとめた（表5）。

表5 「小規模町村保健師オンライン情報交換会」参加者属性 (N=24)

項目	内容	人 (%)	項目	内容	人 (%)	
所属自治体の人口規模	2,000人未満	8 (33.3)	年代	30代	4 (16.7)	
	2,000人～4,000人未満	4 (16.7)		40代	10 (41.7)	
	4,000人～6,000人未満	4 (16.7)		50代	9 (37.5)	
	6,000人～8,000人未満	5 (20.8)		60代	0 (0.0)	
	8,000人～10,000人未満	1 (4.2)		無回答	1 (4.2)	
	10,000人～12,000人未満	0 (0.0)		職位	係員	5 (20.8)
	12,000人～14,000人未満	0 (0.0)			係長級	9 (37.5)
	14,000人～16,000人未満	1 (4.2)			課長補佐級	6 (25.0)
	無回答	1 (4.2)			課長級	3 (12.5)
		次長級	0 (0.0)			
自治体の常勤保健師数	1人	4 (16.7)	統括的立場にある 保健師か	統括的立場である	13 (54.2)	
	2人	1 (4.2)		統括的立場ではない	10 (41.7)	
	3人	4 (16.7)		無回答	1 (4.2)	
	4人	4 (16.7)		令和7年度 小規模町村 活動報告リレーの視聴	視聴した	19 (79.2)
	5人	4 (16.7)			視聴していない	4 (16.7)
	6人	4 (16.7)			無回答	1 (4.2)
	7人	1 (4.2)				
	8人	1 (4.2)				
	無回答	1 (4.2)				

9) グループ交流・全体共有の概要

各4～6人の計5グループに分かれ、交流・情報交換を行った。グループ編成にあたっては、1.人口規模、2.職位・統括保健師であるか否か、3.希望テーマを考慮した。希望テーマは、①組織としての保健師人材育成、②自分自身の保健師としてのキャリア形成、③人材確保と定着支援、④職場内での保健師間の連携、⑤管理的役割を担う保健師のマネジメント、⑥保健福祉活動等の業務体制・分担、⑦業務のスクラップ&ビルド、⑧災害対応・備え、⑨ICTの活用・デジタル化の計9つを提示し、参加申込時に第3希望まで選んでもらった。当日は、まずテーマを確認・決定してから交流・情報交換を進めるように説明した。

全体共有では、各グループから以下の内容が報告された。

- ・地域住民に保健師の顔を売っていくための工夫、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の具体的な実施方法、人材確保としての学生実習やインターンシップの工夫について共有・情報交換できた。
- ・若手保健師に対して、他の参加者から、経験に基づくエールを送ったが、その内容は経験のある他の参加者にとってもエールになった。小規模特有の悩みを直接話すことができ、明日から頑張ろうという気持ちになった。
- ・事業の効率化について、具体的には母子保健事業の広域化、訪問記録や議事録作成を時短化する方法、近年求められる幅広い役割に対応できる保健師の育成などを情報交換した。今後、事業の効率化という面から活動を考えていきたいと思った。

- ・人材の確保・定着には、保健師が生き生きと活動している様子を外に発信すること、就職に際し地元志向があるため高校生だけでなく中学生に向けて PR することなどが大事であることを共有した。仕事だけでなく生活も重視したいという若い人のニーズをふまえた人材育成プログラムをつくり、安心して働けるようにしたい。
- ・参加者は新任期から管理期までの多様な保健師だったが、自身のキャリア形成について、プライベートも充実させることの大切さ、学会などで外に目を向けて新しい視点をモチベーション維持につなげることなどについて意見交換できた。

10) 不参加者へのアンケート

活動報告リレーに参加した小規模町村保健師を対象に実施し、オンライン情報交換会に参加しなかった理由や、今後参加しやすくするための条件等を把握することを目的に、アンケートを実施した。

参加しなかった理由としては、「業務多忙により時間の確保が難しい」「業務の都合がつかない」など、業務量の多さや日程調整の困難さに関する回答が多くみられた。また、12月には予算査定や議会対応等の業務が重なる時期であり、参加が難しいとの意見も挙げられた。さらに、すでに他の研修会等で情報交換の機会があることや、職場環境や人員体制の状況により参加が難しいといった意見もみられた。

自由記述では、案内時期を早めることで日程調整がしやすくなることや、業務分担や職場体制によっては個人単位で参加できる形式が望ましいといった意見が寄せられた。

11) まとめ

参加者は時間が足りないと感じるほど、どのグループも盛り上がり、課題や工夫について共有、情報交換ができた。参加者のアンケート結果からは、「もう少し時間があるとよかった」という意見があった一方、「業務との兼ね合いでは適切だった」という意見も確認できた。

小規模自治体の保健師は、多くの業務を担当しなければならないという状況の中で、創意工夫をして活動していると実感した。小規模自治体ならではの強み、例えば個々のケースに丁寧に関わることができるといったことを活かし、そのことにやりがいを感じながら活動されているとわかった。

また、仕事だけでなくプライベートも充実させること、オンとオフを明確にして自身の生活を充実させることが大事、という話も印象に残った。仕事だけでなく生活そのものが充実している姿を外に発信できると、自身のモチベーション維持になり、さらに人材確保にもつながっていく可能性を感じた。

小規模自治体特有の状況の中で保健師活動をしていく上では、受援力が大事で、職場の同僚・上司や職場内外の他職種に、「困っている」ということを伝えることが重要であると確認できた。管轄の保健所に相談することも有用であると確認した。

この情報交換会を通じて、小規模自治体で働く保健師同士がつながることができたので、今後も連絡を取り合い、交流を継続してもらいたいと期待して終了した。

事後アンケート結果より、回答者の全員が満足していること、県外の同規模・同様の状況の自治体との情報交換の機会が貴重であること、オンラインの活用によりそれが可能となっていること、今後も参加したいという希望が確認でき、本情報交換会の目標は達成できたと考える。

不参加者へのアンケートから、小規模町村保健師が情報交換会へ参加しやすくするためには、開催時期や時間帯への配慮に加え、早期の案内や柔軟な参加形態の設定など、業務状況に配慮した運営が重要であると考ええる。

3 小規模町村保健師ネットワーク化の検討

1) 情報交換会参加者アンケート調査

【目的】

小規模町村で勤務する保健師が、人材育成において直面している課題やニーズを明らかにし、効果的な交流プラットフォームの目的・機能・運営方針の設計に資する基礎情報を得ることを目的とする。特に、同規模自治体間での相互学習や情報共有を促進し、保健師の専門性向上と地域保健活動の持続的発展を支える仕組みづくりの基盤となるデータを収集する。

【方法】

人口1万人未満の町村に所属し常勤で勤務する保健師のうち、オンライン情報交換会（令和7年12月8日）に参加した者を対象に、オンラインによる質問紙調査を実施した。調査は情報交換会終了後に研究の概要を説明し、参加者にオンライン質問紙への回答を依頼して行った。質問項目は、勤務年数や所属といった基本属性に加え、業務上の困りごと、必要とする支援や情報、デジタルツールの利用状況、望ましい交流形式や頻度、匿名性の希望、関心テーマで構成し、選択肢を設定した。これらの回答を集計し、全体の傾向を把握した。

【結果】

13人（有効回答率54.1%）から回答を得た。回答者の属性として、1～3年1人、4～10年3人、11～20年1人、21年以上8人であり、21年以上の経験を有する保健師が全体の6割（61.5%）を占めた。また、勤務場所が役場庁舎である者が6割（61.5%）であった。

1. 日々の実践で困っていることとして、「知識・技術はあるが活用しきれない（53.8%）」、「自信がもてない（53.8%）」といった実践への不安に関する項目が最も多く選択されていた。次いで、「同僚や他職種との連携の難しさ（38.5%）」、「ケース対応や業務の優先順位に迷う（30.8%）」など、判断や調整に関わる負担が挙げられた。一方で、「知識・技術そのものの不足（23.1%）」は比較的少なく、回答者の多くが長期経験者であることと整合していた。「相談相手がない（15.4%）」、「所属部署や住民の理解が得られない（15.4%）」といった孤立感に関する項目も一定数みられ、小規模町村特有の少人数体制が影響している可能性が示唆された。「人材確保（7.7%）」や、「（その他：自由記載回答）保健師などの専門職は、専門職としてではなく、一般事務として資格保有者を採用するスタンスだと入職後に説明を受けた。指導・助言をいただける先輩保健師がいない中、2人の新任期保健師が手探

りで保健師業務を行いながら当然のように一般職として契約書等の事務作業を求められることに困難感を感じる。」といった、少数ではあったが構造的課題の回答もあり、背景として潜在的に存在していることがうかがえた。

全体として、知識不足よりも、活用の難しさ、判断の迷い、相談体制の弱さなど、実践を支える環境やネットワークの不足が主要な困りごととして表れていた。

2. 必要とする情報・支援として、「似た立場の保健師とつながれる場」へのニーズが全員（100%）に共通しており、最も強い要望として示された。次いで、「オンラインでのミニ研修や学びの機会（76.9%）」、「他地域の事例を簡単に参照できる資料（61.5%）」、「メンタル面のフォローや悩みの共有（61.5%）」が多く選択され、実務の参考情報と心理的支援の双方が求められていることが明らかとなった。また、「疑問を気軽に投稿できる掲示板やチャット（46.2%）」も一定の支持があり、日常的に相談できる仕組みへのニーズもうかがえた。

全体として、専門的情報へのアクセス、学びの機会、横のつながり、そして心理的な支えが重要な支援要素であることが示されたが、特に、少人数体制で働く環境を補完する「つながり」と「学び」の場が強く求められていた。

3. 望ましいつながり方については、「テーマ別勉強会（84.6%）」と「定期的なオンライン情報交換会（69.2%）」が特に支持され、学びを軸にした継続的なオンライン交流への強いニーズが示された。「オンライン掲示板（46.2%）」や「匿名相談チャット（38.5%）」など、日常的に気軽に相談できる仕組みも一定の需要があった。また、「エッセイリレー（30.8%）」にも関心が寄せられ、情報共有の形式は多様であることがうかがえた。一方で、「フェスティバル型のオンライン交流会（15.4%）」は支持が低く、負担の少ないオンライン中心の交流が望まれていることが明確であった。総じて、学び・相談・情報共有をオンラインで継続できる場が最も求められているといえる。

4. 今後プラットフォームで扱いたい情報・交流テーマは、「業務効率化・業務改善（61.5%）」が最も多く選択され、次いで「ICT・DX等の技術活用（53.8%）」、「保健業務の効率化（53.8%）」、「管理的立場の保健師の活動・管理業務（53.8%）」が高い関心を集めた。これらはいずれも、小規模町村における限られた人員体制の中で業務を進めるうえで重要なテーマであり、効率化やマネジメントに関する情報ニーズの高さが示された。

また、「中堅職員のキャリア支援（46.2%）」、「新規採用保健師の支援（46.2%）」、「学生指導・実習支援（46.2%）」など、人材育成に関する項目も多く選択されており、世代を超えた育成支援の必要性がうかがえた。さらに、「妊産婦支援」「思春期保健」「生活習慣病予防」、「保健活動の記録・評価」など、日常業務に直結するテーマも一定の関心（いずれも30.8%）を集めていた。

全体として、業務効率化・ICT活用・マネジメント・人材育成が主要な関心領域であり、プラットフォーム設計においては、これらのテーマを中心に情報提供や交流機会を整備することが有効であると考えられる。

2) インタビュー調査

【目的】

小規模町村で働く保健師が人材育成や保健活動において直面する課題やニーズを明らかにし、小規模町村保健師が求める有効かつ持続可能な交流プラットフォームの目的・機能・運営方針を設計する。

【方法】

人口 1 万人未満の町村に所属し常勤で勤務する保健師のうち、オンライン情報交換会（2025 年 12 月 8 日）に参加した者を対象に、グループインタビュー調査を実施した。調査は令和 8 年 1 月 29 日（木）午前 10 時から 11 時にオンラインで実施し、参加者は 7 名であった。調査内容は、①現在の業務と課題、②情報収集・スキルアップの手段、③デジタルツール・オンライン活用状況、④理想的な支援・仕組み像、⑤プラットフォームを継続的に利用するために必要な要素とした。

【結果】

参加者は 7 名で、全員が市町村保健師であった。自治体人口が、1,000 人未満が 2 人、1,000 人以上 3,000 人未満が 2 人、5,000 人以上 8,000 人未満が 3 人であった。保健師経験が 20 年以上の者が半数以上であった。保健師経験年数は 10 年未満が 1 人、20 年以上 30 年未満が 2 人、30 年以上が 4 人であった。

多くの自治体に共通する課題として、保健師数の不足や退職に伴う引継ぎの困難さ、相談相手の不在が挙げられた。特に退職予定者がいる場合でも後任が未定であることが多く、数年先を見据えた体制整備や業務の優先順位付けが困難となっている。また、助言を得る機会が乏しく、隣接自治体や過去の勤務先との個人的なつながりに頼らざるを得ない実態があった。

業務内容としては母子保健や虐待対応の比重が高まり、要保護児童対策協議会の対象者増加により負担が増している。一方で、住民同士のつながりが強く、地域特性を生かした手厚い支援が可能であるという強みもみられた。しかし、産後ケアや療育等の資源が乏しく、支援に苦慮する声も多かった。また、保健師 1 名体制では相談や振り返りができず、住民との距離の近さゆえに公私の切り替えに悩む状況が語られた。保健師が複数名居ても管理職に就いた保健師が現場業務から離れることで保健師業務が回らなくなるという課題や、多職種への業務分担の必要性、専門性や思いが十分に共有されない難しさも指摘された。

情報収集・スキルアップの手段としては、インターネット検索や厚労省ホームページ、他自治体の例規閲覧、AI（ChatGPT）の活用などが挙げられたが、庁内 PC のセキュリティ制限により自席で自由に閲覧できず、私用スマートフォンや別室 PC を使う非効率な運用が常態化していた。行政内チャットの活用は一定程度進んでいるものの、環境整備や上司の理解、信頼不足が障壁となっている。

理想的な支援・仕組みとしては、同じような課題や規模の自治体同士が気軽に相談できるチャット機能、人口規模や保健師数別に整理された事例・情報の提供、補助金や他部門施

策を横断的に把握できる仕組みへの期待が高かった。また、人材確保に向けた大学・学生との情報共有や自治体PR、統計資料の集約、新任期と管理職それぞれの悩みに対応した情報提供の必要性が明らかとなった。

3) 小規模町村保健師ネットワーク化の検討に係る調査のまとめ

アンケート調査では、回答は 13 名と限られており、小規模町村保健師全体の傾向を断定するものではない。しかし、回答者の中には、知識や技術を持ちながらも活用に迷う場面や、判断・連携・相談体制に関する課題を抱える者が一定数みられた。また、少人数体制ゆえに相談相手が限られ、心理的負担や孤立感につながるケースも確認された。

必要とする支援では、同じ立場の保健師とつながる場、オンラインでの学びや事例共有、日常的に相談できる仕組みなど、実践に役立つ情報と横のつながりの双方が求められていた。さらに、業務効率化や ICT 活用、人材育成といったテーマへの関心も高く、限られた体制で多様な業務を担う小規模町村保健師の実情が反映されていた。

インタビュー調査からは、人員不足や退職に伴う業務継承の困難さ、相談相手の不在などの課題を抱えながら業務を担っている実態が明らかとなった。特に少人数体制では、業務判断や課題解決を個人に依存せざるを得ず、相談や振り返りの機会が限られている状況がみられた。また、母子保健や虐待対応など負担の大きい業務が増加する一方で、産後ケアや療育等の地域資源が不足しており、支援に困難を感じる場面も多いことが示された。

さらに、情報収集やスキルアップは個人の努力に依存している実態がある一方で、同規模自治体同士が気軽に相談できる場や、人口規模や保健師配置数に応じて整理された事例・制度情報の共有へのニーズが示された。

以上より、少人数体制のもとで業務を担う小規模町村保健師にとって、時間や距離の制約を受けないオンラインでの情報交換や継続的な交流を可能とする Web 上のプラットフォームの整備が重要である。プラットフォームには、同規模自治体の取組や事例を参照できるなど実務に役立つ情報提供機能や、保健師同士が交流・相談できる仕組みを備えることが求められる。

Ⅲ 本事業の実施経過

1 事業班会議

【開催目的】 事業の方針、計画、内容、調査、報告書、事業成果周知、ネットワーク化検討

【開催方法・回数】 (WEB 3 回、対面 1 回、打合せ 5 回)

【開催結果】

- ・ 事業の方向性を明確にし、事業計画を立案した。
- ・ 事業の内容を検討し、活動報告リレーとオンライン情報交換会の準備を進めた。
- ・ 調査内容や方法を検討し、調査の実施につなげた。
- ・ 報告書や普及啓発冊子の内容検討や役割分担を行い、作成を進めた。
- ・ ネットワーク化の検討を行い、調査結果等を基に内容や方法を提言することが決まった。

【参考 事業班会議の検討経過と主な取組み】

月	場面	検討内容
4 月	事業計画、予算の検討	
5 月	事業班会議① ZOOM	事業概要、事業計画、活動報告リレー報告者 検討 担当や事業スケジュール決定、予算
6 月	活動報告リレー報告者の依頼	
7 月	第 1 回活動報告リレー打合せ	進行や準備の確認、意見交換のポイント検討
	事業班会議② ZOOM	活動報告リレー進捗状況の共有、 オンライン情報交換会の検討
8 月	第 1 回活動報告リレー実施	
	調査の打合せ	調査内容、方法の検討、役割分担
9 月	第 2 回活動報告リレー打合せ	進行や準備の確認、意見交換のポイント検討
	第 2 回活動報告リレー実施	
	研究倫理審査	研究倫理審査委員会申請書提出
10 月	第 3 回活動報告リレー打合せ	進行や準備の確認、意見交換のポイント検討
	第 3 回活動報告リレー実施	
	事業班会議③ ZOOM	活動報告リレー振り返り、 オンライン情報交換会の検討、調査の検討
12 月	オンライン情報交換会打合せ	進行や役割分担、グループワークの確認
	オンライン情報交換会実施	
	アンケート調査実施	
	事業班会議④ 対面	オンライン情報交換会振り返り、調査結果共 有、事業成果報告、ネットワーク化検討
1 月	インタビュー調査実施	
1～3 月	調査のまとめ	アンケート・インタビュー調査のまとめ
	メール	報告書、普及啓発冊子の作成

2 小規模町村保健師活動報告リレー

【目的】【実施時期】【方法・内容・結果】 II 事業報告参照

3 小規模町村保健師オンライン情報交換会

【目的】【実施時期】【方法・内容・結果】 II 事業報告参照

4 小規模町村保健師ネットワーク化の検討

【調査目的】【調査対象】【調査方法】【調査時期】【調査結果】 II 事業報告参照

5 普及啓発冊子の作成・発信

【目的】 本事業に参加していない者も含む小規模町村保健師が、小規模町村保健師同士の交流の意義を理解し、自町村の保健師活動を振り返ること等を目的に、本事業の成果を伝える普及啓発冊子を作成し発信する。

【公表方法】 山口大学大学院医学系研究科地域看護学分野ホームページに掲載
(ホームページ URL)

http://publichealthnursing.med.yamaguchi-u.ac.jp/Project_report_2025.pdf

※URL をコピーしてブラウザに貼り付けてください。

IV 事業組織体制

	氏名	所属・職位
分担事業者	牛尾 裕子	山口大学大学院 医学系研究科保健学専攻・教授
事業協力者	山田 洋子	岐阜県立看護大学・教授
	石川 麻衣	群馬大学大学院 保健学研究科・准教授
	吹田 晋	国立保健医療科学院・主任研究官
	宮前 美紀	全国保健師長会 日置市役所 市民福祉部福祉課・課長
	太田 あゆ美	NPO 法人へき地保健師協会・副理事 東京慈恵会医科大学 医学部看護学科・助教
	青木 さぎ里	NPO 法人へき地保健師協会・理事 自治医科大学 看護学部・講師
	村上 祐里香	山口大学大学院 医学系研究科保健学専攻・助教

V 参考資料

1 小規模町村保健師活動報告リレー開催要領

令和7年度「地域保健総合推進事業」小規模町村保健師人材開発のための活動報告リレー 開催要領

1 目的

市町村保健師の人材育成は、都道府県や保健所等が企画推進しているが、新任期保健師研修等は小規模町村にも広く利用される一方、中堅期以降、特に管理期を対象とした人材育成は十分であるとは言えない。また、地方を中心とした人口減少、それに伴う自治体保健師等の人材も減少することが予測されており、その状況下における保健師の人材育成や増大かつ複雑化する保健師業務の実施方法について改めて検討する必要がある。

令和6年度に「小規模自治体保健師活動報告リレー」をオンラインで実施した。人口1万人未満の小規模町村ならではの保健師組織・業務の課題や工夫した取組等が報告され、都道府県人材育成担当者や市町村の様々な立場の保健師と共有し、この取組の継続の希望も多く寄せられた。

以上より、今年度も引き続き、小規模町村の保健師人材育成や保健師活動に係る課題と工夫を、都道府県、保健所及び他の小規模町村と共有し、今後の保健師人材育成や保健師業務の実施方法について考える機会とするため、小規模町村保健師活動報告リレーをオンラインで開催する。

2 参加対象

- (1) 市区町村の保健師(統括保健師・統括的立場の保健師を含)等
- (2) 都道府県・保健所の統括保健師・人材育成担当保健師等
- (3) 保健師等人材育成等に関わる方(事務職等)

3 開催日時・方法

1回2自治体(オンラインによる活動報告、意見交換)

	日時	報告自治体
第1回	令和7年8月5日(火) 14:00~15:00	小規模町村の保健師人材育成、保健師業務の課題と取り組み(複数保健師設置小規模町村) ① 埼玉県長瀬町 ② 福井県おおい町
第2回	令和7年9月29日 (月) 15:00~16:00	人口5,000人未満規模町村の保健師活動(課題と取り組み) ① 岐阜県東白川村 ② 富山県舟橋村
第3回	令和7年10月16日 (木) 15:00~16:00	極小規模自治体における特殊状況下での非常事態へのチャレンジ ① 鹿児島県十島村 ② 島根県知夫村

4 内容

- (1) 発表自治体からの報告 各 15 分程度
 - ・保健師人材育成体制の課題、取組、工夫点
 - ・保健師業務全般における課題、工夫点 等
- (2) 意見交換(報告者、当分担事業者等) 30 分程度

5 申込方法

二次元コードまたは URL より Google フォームにて申込み

【申込期限】

- 第1回: 令和7年7月 28 日(月)
- 第2回: 令和7年9月 22 日(月)
- 第3回: 令和7年 10 月7日(火)

6 アーカイブ配信について

本活動報告リレーの録画については、参加申込者に限り、期間限定で配信。

【アーカイブ配信期間】

- 第1回: 令和7年8月8日(金)~12月9日(火)
- 第2回: 令和7年 10 月2日(木)~12月9日(火)
- 第3回: 令和7年 10 月21日(火)~12月9日(火)

7 事後アンケートの実施について

活動報告リレー終了後に、参加者、アーカイブ配信視聴者いずれの方へも本報告リレーの内容、保健師等の人材育成に関するアンケート(Google フォーム)を実施。

報告リレー開催時に事後アンケートについて連絡する

1)第1回小規模町村保健師活動報告リレー
＜プログラム＞

令和7年度地域保健総合推進事業

第1回小規模町村保健師活動報告リレー

テーマ：「小規模町村の保健師人材育成、保健師業務の課題と取り組み
(複数保健師設置小規模町村)」

日時：令和7年8月5日(火) 14:00～15:00

開催方法：オンライン

【プログラム】

14:00～14:05 開会 本事業の趣旨等説明

分担事業者 山口大学大学院医学系研究科 牛尾裕子

14:05～14:20 埼玉県長瀨町からの報告

報告者：長瀨町 健康こども課 課長 福島 陽子 様

コメント：埼玉県秩父保健所 担当部長 鈴木 幸子 様

14:20～14:35 福井県おおい町からの報告

報告者：おおい町 すこやか健康課 課長補佐 林 早苗 様

コメント：福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター 所長 玉井 さをり 様

14:35～14:55 意見交換

15:00 閉会 事後アンケート、次回開催案内

【ファシリテーター】

山口大学 牛尾裕子

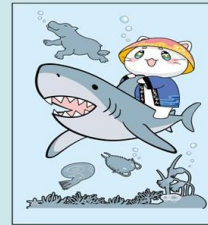
国立保健医療科学院 吹田晋

<報告資料>

【埼玉県長瀬町】

長瀬町の概況 2

面積	30.43km ²
地理的特徴	埼玉県の西北部、秩父山系の関門、四方を山に囲まれている
森林率	約60%
産業	基幹産業は、観光業と製造業 女性の就業率は県内2位
人口(R7.4現在)	6,453人
2040年推計人口	4,927人
高齢化率	41.1%
合計特殊出生率	0.81(R5) 年間出生数15人程度



長瀬町は元々水産町キョウラクター
とろにゃん

「ジオパーク秩父」・・・
はるか昔、秩父地域は海であった。

長瀬町の概況 3

職員数	78名
うち保健師数	7名
保健師の年齢構成	20代1名(新規採用) 30代2名(勤続2年、17年) 40代2名(勤続25年、26年) 50代2名(勤続29年、31年)
保健師の配置部署	健康こども課 5名 (課長1名、健康づくり担当3名、 子育て支援担当1名) 福祉介護課 2名 (地域包括支援センター)
統括保健師の配置	有(事務分掌に位置づけはない)



長瀬町は元々水産町キョウラクター
とろにゃん

長瀬船玉まつり
8月15日開催

TAKE HOME MESSAGE

お持ち帰りいただきたいメッセージ

【30年の振り返りで感じたこと】

- 保健師の定着がよい。継続できた理由、原動力は何だったのか。
新人保健師を除く保健師5名にアンケート
⇒ほぼ全員が、「町民に支えられた」「保健師の仲間に支えられた」との答え。
⇒「思い」の実現や、やりたいことができる職場環境にある。
★保健師のチームワークがよい
★人とのつながりの中で成長、楽しさが感じられることがモチベーションに
- 「なんちゃって保健師」の育成で、保健師の専門性を考えるきっかけとなり、上手いくと、保健事業も充実する
- 新人保健師の育成は、自身の保健活動の振り返りとスキルアップ
新人保健師へのアンケート 長瀬町に就職して良かったこと
⇒ 町民との距離が近く、事業がやりやすい
- 秩父地域の力、強み
保健所保健師とのつながり(Give and Take!であったり、Win Win!の関係性)
秩父地域保健師会の役割

【福井県おおい町】

自治体の概況 《 福井県大飯郡 おおい町 》

人口 (R7.4.1)	7,635人
2040年 推計人口 ※注1	6,112人
高齢化率 ※注2	32.4%
合計特殊出生率 (出生数) ※注3	1.91 (令和6年度出生数 48人)
保健師数	7人
保健師の年齢構成	40代: 2人 (27年目(統括)・25年目) 30代: 5人 (17年目・16年目・ 14年目2人・6年目)
保健師の配置部署	すこやか健康課 (こども家庭センター) : 4人 保健福祉室 (地域包括兼務) : 1人 いきいき福祉課 (地域包括含む) : 2人
管轄保健所	福井県若狭保健所

※注1: 令和5年国立社会保障・人口問題研究所 ※注2: 令和2年国勢調査結果 (総務省統計局)
※注3: 平成30年~令和4年人口動態保健所・市区町村別統計の概況



まとめ (Take Home Message)

保健所と管内市町で共に学びあう環境

顔の見える関係づくり → 困ったときに相談しやすい
地域全体の保健活動の質の向上にもつながる

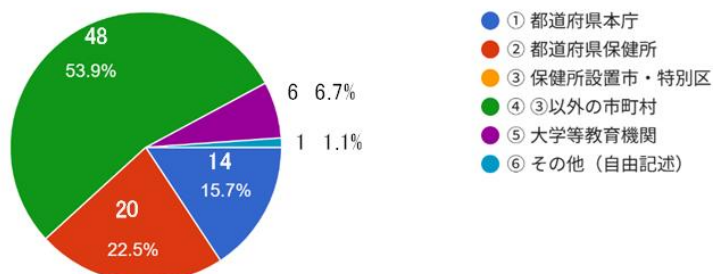
日頃のコミュニケーションを大事に

毎月のミーティングの他、日頃からの情報共有も大事に。
業務を一人で抱え込まないように、皆を巻き込みながら
仕事をしていこう！

第1回小規模町村保健師活動報告リレー アンケート結果

1.所属を下記より選んでください。

89件の回答



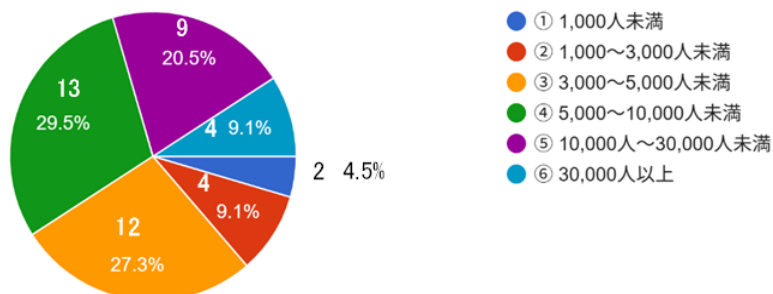
⑥その他（自由記述）

- ・近隣では自自治体ほどの小規模市町村がないため、小規模自治体であるが故の困り感を現状あまり共有できていません。お話を聞いてよかったです。
- ・看護協会

2.保健所を設置しない市町村の方（設問1で④とお答えいただいた方）にお伺います。

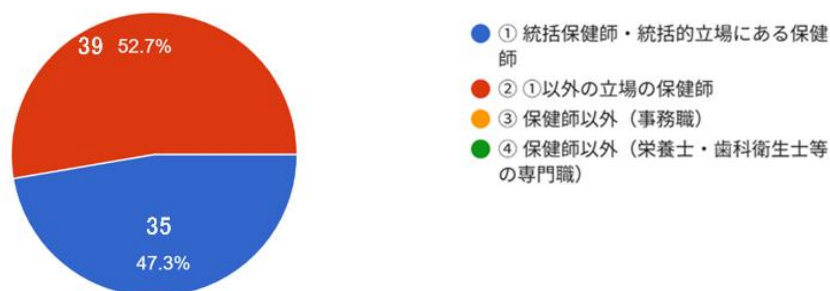
自治体人口規模を選んでください。

44件の回答



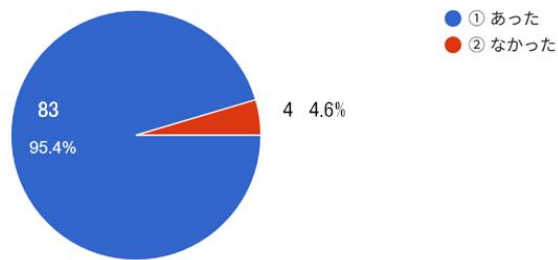
3.所属が、①都道府県本庁・保健所、②保健所設置市区、③保健所を設置しない市町村、に当てはまる方にお伺います。あなたの立場で最も当てはまるものを選んでください。

74件の回答



4-1)埼玉県・長瀬町の報告を聞き、活用したい取組みや興味深い内容がありましたか。

87件の回答



4-2)それはどのような内容でしたか。(主な意見)

1. 事務職も含めた「なんちゃって保健師」の取組

- ・事務職も巻き込みながら保健事業を進める「なんちゃって保健師」の発想が印象的であった。
- ・専門職以外の職員とも連携し、行政全体で地域保健に取り組む姿勢が参考になった。
- ・事務職のモチベーション向上や行政能力の向上につながる取組として関心を持った。

2. 保健師の定着・人材確保に関する取組

- ・保健師の定着率が高く、その背景や要因を分析している点が参考になった。
- ・保健師として働く魅力を感じられる職場環境づくりが重要だと感じた。
- ・学生実習の積極的な受け入れが人材確保にもつながっている点が印象的であった。

3. 保健師同士のつながり・情報交換の場

- ・月1回のミーティングや研究会など、保健師が集まり情報交換する場を継続していること。
- ・分散配置の保健師同士が話し合える場が定期的に設けられていること。
- ・保健師会や研究会が、保健師の支えとなる場として機能していること。
- ・研究会や交流の場を「細く長く継続すること」の重要性を感じた。

4. 保健所と市町村の連携

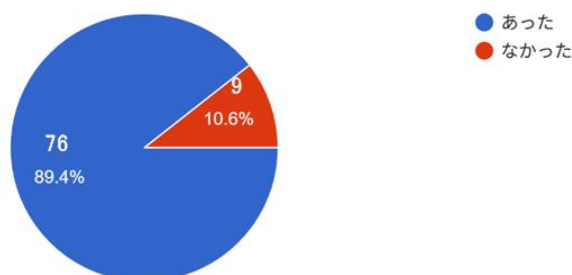
- ・保健所が市町村へヒアリングを行うなど、日頃から密接に連携していること。
- ・保健所管内の研究会や事例検討会を通じて、地域全体の保健活動が推進されていること。
- ・市町村と保健所の関係が近いことが、人材育成や地域連携につながっていると感じた。

5. 多職種・地域との連携

- ・保健師同士だけでなく、多職種や地域住民とのつながりを大切にしていること。
- ・顔の見える関係を活かした人材育成や地域づくりの取組が参考になった。

5-1)福井県・おおい町の報告を聞き、活用したい取組みや興味深い内容がありましたか。

85件の回答



5-2) それはどのような内容でしたか。(主な意見)

1. 研究会・連絡会など学び合いの場の活用

- ・地域保健研究会や保健師連絡会など、課題について継続的に検討する場が設けられていること。
- ・情報交換やコミュニケーションを通じて、互いに学び合う環境が整えられている点。
- ・研究会等を通して、地域課題を研究的に整理し現場の実践に活かしていること。

2. 事務職・多職種を巻き込んだ取組

- ・研究会に事務職や栄養士など保健師以外の職種も参加していること。
- ・多職種の視点を取り入れることで、課題解決や事業改善につながっている点。
- ・保健師以外の職員も含めた会議や検討の場づくりが参考になった。

3. 保健所と市町村の連携・学び合い

- ・保健所と市町村が互いに学び合う姿勢を持ち、連携しながら地域課題に取り組んでいること。
- ・保健所の担当者会議や研究会を活用した情報共有・支援体制が参考になった。
- ・保健所と管内市町村の関係性が、地域の保健活動推進につながっていると感じた。

4. 近隣市町村との連携による課題解決

- ・近隣市町村で共通する課題を共有し、連携して取り組んでいること。
- ・複数自治体で災害時保健師活動マニュアルを作成するなど、広域的な取組が参考になった。

5. 人材育成・人材確保に関する取組

- ・学生実習の受け入れや高校生インターンシップなど、人材育成・確保を意識した取組。
- ・次期統括保健師の育成など、将来を見据えた人材育成の視点が印象的であった。

6. 埼玉県・長瀬町にメッセージがあればお願いします。(抜粋)

- ・「なんちゃって保健師」の育成など、保健師だけでなく事務職も巻き込む活動に圧巻しました。忙しい日々だと思いますが、応援しております。
- ・職員の支え合いが継続され、お互いの質の向上につながっていることが分かりました。保健所が管内市町村の特性をつかんで支援されており、有機的な連携ができていますと感じました。人が育つ環境づくりについて学ばせていただきました。
- ・継続は力なりの活動をされていることに頭が下がります。本自治体も、自分たちの歩みを信じて取り組みを進めていきたいと感じました。
- ・住民や保健師の仲間に支えられて保健師を続けておられるという、とても魅力的な仕事環境が羨ましいです。
- ・町保健師がやりがいをもって仕事をされていることが見える形になっており素晴らしいと思いました。学生実習の受け入れが人材確保につながるという話もとても貴重でした。
- ・不要論を乗り越えて保健師会を継続されていること、アンケートで本当の声を拾いながら活動を続けていることが素晴らしいと感じました。
- ・つながりを大切にし、楽しみも悩みも気軽に話し合いながらやりたいことができるのが小規模町村の強みだと再確認しました。
- ・保健師が長く定着していることが素晴らしいと思いました。忙しい中でも協力・相談できる関係があることが伝わってきました。
- ・少ない人員体制の中でも、事務職や近隣市町村、保健所と連携しながら保健事業を進めている点がとても素晴らしいと思いました。
- ・資源をフルに活用し、小規模だからこそその強みを活かして地域全体で取り組んでいる点がとても良いと思いました。保健師が辞めないのは魅力的な町なのだと思います。

7.福井県・おおい町にメッセージがあればお願いします。（抜粋）

- ・人とのつながりを大切にされ、コミュニケーションを重視されている点が印象的でした。わがまちでも見直していきたいと思います。忙しい日々だと思いますが応援しています。
- ・保健所や管内市町との関係づくりが、保健活動の質の向上にもつながる大切な取組であると感じました。
- ・保健師同士だけでなく、多職種を巻き込んだ人材育成ができる体制づくりについて学ばせていただきました。
- ・保健師の採用について課題があり、インターンシップを検討していたところでしたので親近感が湧きました。
- ・新規採用の募集をかけても来ないという実情は全国どこも同じなのだと思います。小規模自治体ならではの保健師活動の魅力を発信していく工夫を自分の町でもしていきたいと思いました。
- ・保健研究会に保健師以外が関わってくれる点が素晴らしいと思いました。町全体で保健分野を良くしようとする姿勢があれば、職種を超えてやりがいのある保健活動ができると感じました。
- ・分散配置となって事業継続について悩みもありますが、効率と住民への寄り添い方を考えることは共通の課題だと感じました。災害保健活動マニュアルの作成も参考になりました。
- ・小規模自治体として共感するところが多く親近感が湧きました。地域は違いますが頑張っていこうと思いました。人とのつながりは大事ですね。
- ・少ない人員体制の中でも、事務職や近隣市町村との連携、保健所のバックアップを受けながら保健事業を進めている点がとても素晴らしいと思いました。
- ・県との関係が良く、単に仲が良いだけでなく地域保健の向上を目指した取組を継続されている点に感銘を受けました。

8.本報告会の感想・意見等お聞かせください。（抜粋）

- ・2つの自治体の活動報告から、小規模市町村ならではの工夫や多職種・他機関を巻き込んだ活動を知ることができ、日々の自分自身の活動を振り返る機会になりました。ありがとうございました。
- ・教育機関にいと現場の声を聴く機会が少なくなっていますので、このような活動報告を聞くことで現場の課題や教育における役割を見直すことができました。
- ・小規模自治体に特化した内容でとても身近に感じました。
- ・他の地域の小規模自治体の取り組みを知ることができ、大変参考になりました。
- ・日頃のコミュニケーションや顔の見える関係づくりが大切であることを改めて感じました。
- ・人口規模が似ており共感できる部分が多くありました。強みに目を向けながら仲間同士助け合っていきたいと思いました。
- ・同規模自治体の活動を聞く機会は少ないので、大変参考になりました。
- ・実際の自治体の取り組みを聞くことができ、とても興味深く学びになりました。
- ・コンパクトな時間の中で大事なエッセンスやヒントをいただくことができました。
- ・初めて参加しましたが、とても身近な話題で多くの気づきが得られる報告会でした。

2)第2回小規模町村保健師活動報告リレー
＜プログラム＞

令和7年度地域保健総合推進事業

第2回小規模町村保健師活動報告リレー

テーマ：「人口5,000人未満規模町村の保健師活動（課題と取り組み）」

日時：令和7年9月29日（月） 15:00～16:00

開催方法：オンライン

【プログラム】

15:00～15:05 開会 本事業の趣旨、第1回の実施状況等説明

群馬大学大学院 石川麻衣

15:05～15:20 岐阜県東白川村からの報告

報告者：東白川村村民福祉課 課長兼包括支援センター長 桂川のぞみ様

コメント：岐阜県可茂保健所健康増進課 保健予防係長 児玉美智子様

15:20～15:35 富山県舟橋村からの報告

報告者：舟橋村健康福祉課 保健係長 黒田綾子様

コメント：富山県中部厚生センター企画調整班 班長 浦辻効英様

15:35～15:55 意見交換

16:00 閉会 事後アンケート、次回開催案内

【ファシリテーター】

岐阜県立看護大学 山田洋子


群馬大学大学院 石川麻衣

東京慈恵会医科大学 太田あゆ美

<報告資料>

【岐阜県東白川村】


自治体の概況 《岐阜県東白川村》	
人口 (R7.4.1)	1,998人
2024年 推計人口 ※注1	1,214人
高齢化率 ※注2	45.1%
合計特殊出生率 (出生数) ※注3	1.59 (8人)
保健師数	4人
保健師の年齢構成	20代、40代、50代、60代
保健師の配置部署	村民福祉課 (包括1人、保健2人、子育て支援1人)
管轄保健所	可茂保健所




Take Home Message

人をまるごとみていける
小規模自治体の保健師って、
結構すごいんじゃないかしら

【富山県舟橋村】

 **自治体の概況**
《富山県舟橋村》

人口 (R7.4.1)	3,326人
2025年 推計人口 ※注1	3,054人
高齢化率	18.5%
合計特殊出生率 (出生数) ※注1	1.86
保健師数	4人
保健師の年齢構成	40代、30代、20代
保健師の配置部署	健康福祉課保健係
管轄保健所	富山県中部厚生センター



※注1 「第2期舟橋村人口ビジョン」より

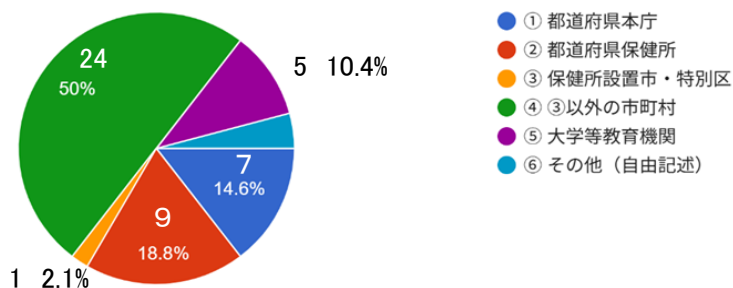
Take Home Message

**小規模自治体の保健師は、
何でもするから、何でもできる、
例え近隣と同じ事業が出来ずとも
個性を活かした方法で
出来ることがあるはず。**

第2回小規模町村保健師活動報告リレー アンケート結果

1.所属を下記より選んでください。

48件の回答



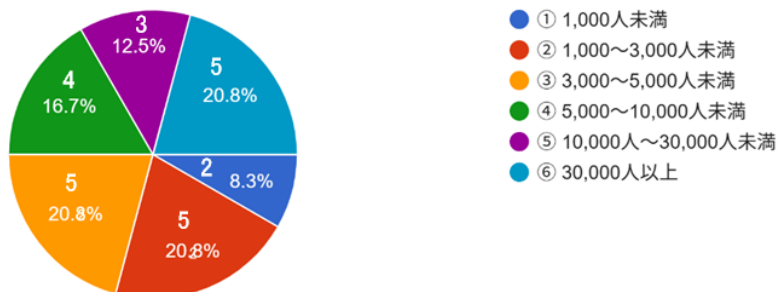
⑥その他 (自由記述)

- ・来年度から人口 300 人ほどの島に転職予定なので勉強になります。
- ・国保連合会
- ・協会

2.保健所を設置しない市町村の方 (設問1で④とお答えいただいた方) にお伺いします。

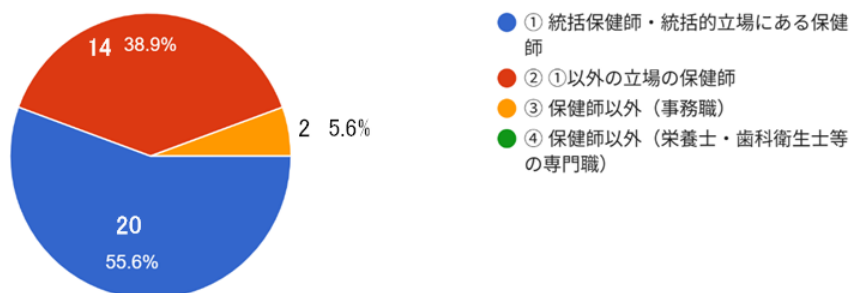
自治体人口規模を選んでください。

24件の回答



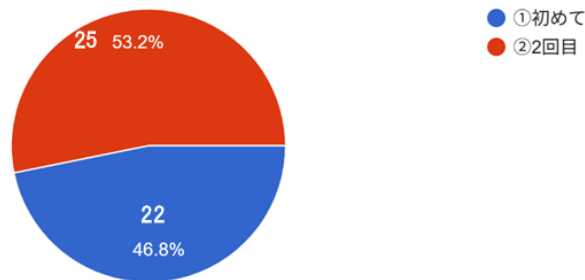
3.所属が、①都道府県本庁・保健所、②保健所設置市区、③保健所を設置しない市町村、に当てはまる方にお伺いします。あなたの立場で最も当てはまるものを選んでください。

36件の回答



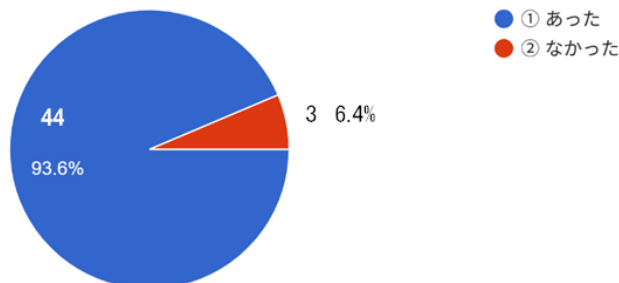
4. 今回の活動報告リレーの視聴は、今年度何回目ですか。

47件の回答



5-1) 岐阜県・東白川村の報告を聞き、活用したい取組みや興味深い内容がありましたか。

47件の回答



5-2) それはどのような内容でしたか。（主な意見）

1. 学生実習の積極的な受け入れと活用

- ・学生実習を積極的に受け入れ、人材確保や保健師の魅力発信につなげている点。
- ・実習を通して学生の視点を取り入れ、保健事業の活性化につなげていること。
- ・実習経験者が就職につながるなど、人材確保の機会として活用していること。

2. 人材育成の取組

- ・学生指導を含めた人材育成を大切にしている姿勢。
- ・課を越えた人材育成や、同行訪問などを通じた実践的な育成体制。
- ・若手保健師の成長を支える環境づくりや先輩保健師の支援が印象的であった。

3. 小規模自治体における保健師活動の特徴

- ・小規模自治体では「一人小規模多機能」ともいえる多様な業務を担っていること。
- ・地域住民をよく知り、地域に責任と愛情を持って活動している姿勢に共感した。
- ・業務の幅広さは大変さもあるが、小規模自治体ならではの保健師活動の魅力を感じた。

4. 組織内の連携と働きやすい環境づくり

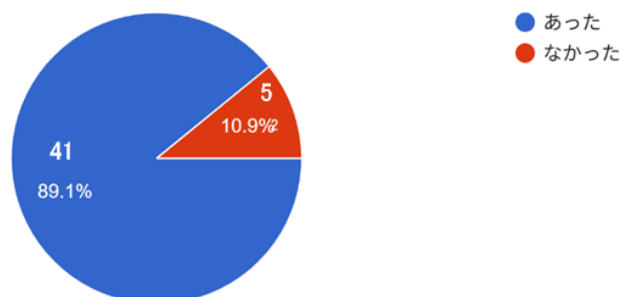
- ・年齢や部署を越えて話しやすい雰囲気づくりやコミュニケーションの工夫。
- ・保健師間の連携や役割分担を行いながら業務を進めている点。
- ・分散配置の中でも定期的なミーティングを行い、情報共有を図っていること。

5. 人材確保に向けた取組

- ・学生実習の受け入れのほか、退職保健師の再雇用など人材確保への工夫。
- ・小規模自治体でも工夫により人材確保につなげている点が参考になった。

6-1)富山県・舟橋村の報告を聞き、活用したい取組みや興味深い内容がありましたか。

46 件の回答



6-2)それはどのような内容でしたか。（主な意見）

1. 人材育成の取組

- ・後輩保健師の育成や学生指導など、人材育成を重視した体制。
- ・社会人採用や経験の異なる保健師への育成・支援の工夫。
- ・日々の業務を人材育成の機会として捉え、挑戦を後押しする姿勢が印象的であった。

2. 組織内のコミュニケーションとチームづくり

- ・定期的な保健師ミーティングなど、相談しやすい環境づくり。
- ・相手の良いところを見つけて言葉にし、互いに認め合う文化。
- ・小規模自治体の強みを活かし、協力・コラボレーションしながら業務を進めている点。

3. 保健師活動を支える組織との関係

- ・役場内で保健師活動への理解と信頼があり、主体的に取り組める環境。
- ・地域や組織から活動が認められ、保健師の提案が実現しやすい体制。
- ・他部署や関係機関と連携しながら業務を進めていること。

4. 保健師活動の工夫と視点

- ・BCPを意識した業務の進め方や役割分担の考え方。
- ・DX 導入の検討など、保健師で行う業務と他職種でも担える業務を整理する視点。
- ・地域資源を活用しながら保健活動を展開していること。

5. 保健師としての姿勢・モチベーション

- ・失敗を学びに変えながら知識や技術を積み重ねていく姿勢。
- ・保健師としての強みを育てながら、前向きに挑戦する姿勢。
- ・小規模自治体の特性を活かし、地域に寄り添った活動を続けている点。

7.岐阜県・東白川村にメッセージがあればお願いします。（抜粋）

- ・とても聞きやすい発表で元気をもらいました。ありがとうございます。
- ・保健師活動の原点に立ち返ることができ、勇気をもらえました。ありがとうございました。
- ・人数が少ないからこそ職場全体で人材を大事にしようという意識が生まれやすいのかなと思いました。「一人小規模多機能」という言葉がとても印象的でした。
- ・保健師活動の魅力がしっかり伝わる内容で、学生も魅力を感じて就職につながったのではないかと思います。
- ・村が好きという気持ちが伝わる発表をありがとうございました。共感する内容が多くありました。

- ・小規模自治体の保健師って結構すごいんじゃないかしら、という言葉に元気をいただきました。
- ・状況に悲嘆することなく前向きに保健師の仕事を楽しんでおられる姿に初心を思い出しました。
- ・「一人小規模多機能」という言葉がイメージしやすく、人を丸ごと見ていく小規模自治体の活動の素晴らしさを改めて感じました。
- ・村が好きという言葉がとても印象的で素敵でした。
- ・地域を大切に思う気持ちが根底にあり、それが魅力的な保健師活動につながっているのだと感じました。

8. 富山県・舟橋村にメッセージがあればお願いします。（抜粋）

- ・他課との連携や、小規模であっても町にとって必要な事業を施策として取り組んでいる点がすごいと思いました。ありがとうございます。
- ・保健師の人数が少ないながらも工夫しながら保健事業を展開し、一人一人を大事にして活動していることが伝わってきました。
- ・体系的な人材育成をされていると感じました。マンパワー不足があっても信じて任せることも大事だと思いました。
- ・規模が違って似たような課題があることがわかり、工夫しながら取り組まれている様子に力をもらいました。
- ・経験の積み重ねや成功・失敗を後輩に伝える姿勢に共感しました。
- ・人材育成について、その人自身がやりたいと思うことをやれるように考えることが大切だと感じました。
- ・人口規模は異なりますが、似たような課題があると感じました。我がまちの個性を活かしながら取り組んでいきたいと思いました。
- ・半径 2 キロの村を歩き尽くし活動されているというお話が印象的でした。地域に寄り添った活動だと感じました。
- ・一緒に働く保健師への信頼やチームワークを感じました。
- ・保健師の強みを見つけること、そして自分が育ててもらったことを次世代に伝えていこうという姿勢がとても素敵だと思いました。

9. 本報告会の感想・意見等お聞かせください。（抜粋）

- ・小規模で頑張っている保健師の活動を聞いて元気をもらいました。貴重な時間になりました。
- ・小さい町でも試行錯誤や様々な工夫をしながら活動し、人材を育てているという話を聞き、とても参考になりました。
- ・小規模自治体の保健活動について具体的な実践を知ることができ、大変参考になりました。
- ・小規模自治体の保健師の皆さんが生き生きと活動されている様子に元気をいただきました。こうした魅力を発信していくことが人材確保にもつながるのではないかと感じました。
- ・それぞれの活動を聞いて、自分自身の活動を振り返るきっかけになりました。
- ・人口や地域環境、保健師数が近い自治体の話を聞く機会がこれまでなかったので、自分の自治体だけではないと知ることができ、勇気づけられました。
- ・小規模自治体の取り組みは他自治体にとっても参考になる内容だと感じました。
- ・多様な自治体の状況に触れることができ、大変参考になりました。
- ・短い時間でしたが、とても有意義な内容でした。ありがとうございました。
- ・同規模自治体の事例を聞ける機会はなかなかないので、とても参考になる報告会でした。

3)第3回小規模町村保健師活動報告リレー
＜プログラム＞

令和7年度地域保健総合推進事業

第3回小規模町村保健師活動報告リレー

テーマ：「極小規模自治体における特殊状況下での非常事態へのチャレンジ」

日時：令和7年10月16日（木） 15：00～16：00

開催方法：オンライン

【プログラム】

15:00～15:05 開会 本事業の趣旨等説明

東京慈恵会医科大学 太田あゆ美

15:05～15:20 鹿児島県十島村からの報告

報告者：十島村役場住民課 村民室室長 本砥貴子様

コメント：鹿児島県鹿児島地域振興局保健福祉環境部 健康企画課 課長 林しおり様

15:20～15:35 島根県知夫村からの報告

報告者：知夫村役場 村民福祉課 課長 山岡伸之様、管理栄養士 松本つばさ様

コメント：島根県 隠岐支庁 隠岐保健所 島前地域危機管理 スタッフ 西明美様

15:35～15:55 意見交換

16:00 閉会 事後アンケート、情報交換会開催案内

【ファシリテーター】

日置市役所 市民福祉部福祉課 宮前美紀

自治医科大学看護学部（へき地保健師協会）青木さぎ里

東京慈恵会医科大学（へき地保健師協会）太田あゆ美

<報告資料>

【鹿児島県十島村】

自治体の概況
《 鹿児島県十島村 》

人口 (R7.10.1)	657
2040年 推計人口 ※注1	558
高齢化率 ※注1	33.8
合計特殊出生率 (出生数) ※注2	1.57
保健師数	4人
保健師の年齢構成	50代前半：1名 (27年目) 30代後半～40代前半：3名 (11年目、5年目、3年目)
保健師の配置部署	健康福祉室 (3名) 村民室 (1名)
管轄保健所	伊集院保健所

※注1 (国立社会保障・人口研究所：日本の地域別将来推計人口令和5年推計)
※注2 (H30-R4推計) 人口動態



村の特徴

1. 役場が行政区外にある。
2. 人口約60～130余人の孤立小型離島7島と無人島5島がある。
3. 天候に左右される。
4. 限られた医療資源と交通手段。

まとめ(Take Home Message)

災害対応で大切にしてきたこと

動く



現場へ駆けつけ、
状況を見て把握する

任せる



頼れる人に任せ、
自分にできることに
集中する

つながる



日頃から
顔の見える関係を
築いておく

【島根県知夫村】

知夫村の概況

人口 (R6.1.1)	592人
2040年 推計人口 ※注1	492人
高齢化率 ※注2	44.8%
合計特殊出生率 (出生数) ※注3	1.60 (令和6年度出生数4人)
保健師数	R5年度~R6年度 常勤保健師 0名 R7年度 常勤保健師 1名
保健師の年齢構成	なし
保健師の配置部署	村民福祉課
管轄保健所	隠岐保健所



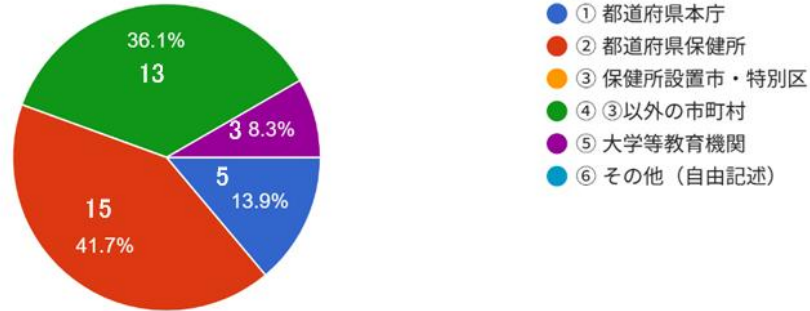
Take Home Message

- ★ “できない理由” より “できる工夫” で地域を笑顔に！
- ★ 小さな村でも、健康づくりのアイデアは無限大！

第3回小規模町村保健師活動報告リレー アンケート結果

1.所属を下記より選んでください。

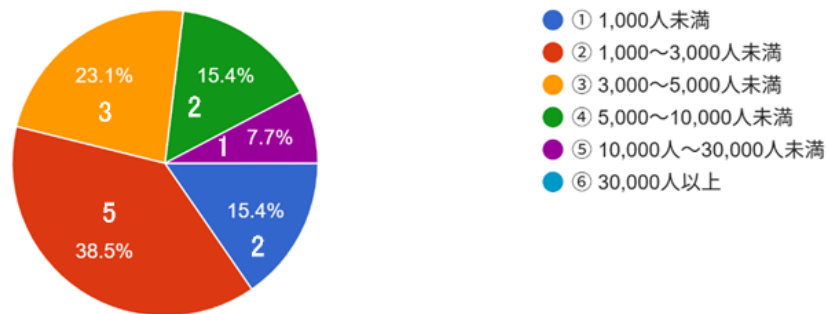
36件の回答



2.保健所を設置しない市町村の方（設問1で④とお答えいただいた方）にお伺いします。

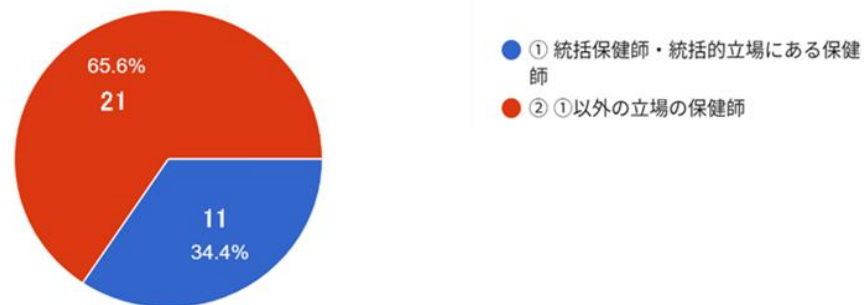
自治体人口規模を選んでください。

13件の回答



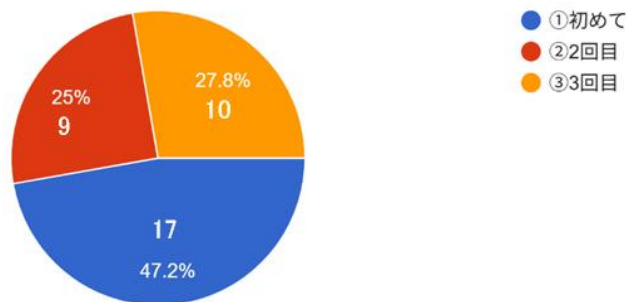
3.所属が、①都道府県本庁・保健所、②保健所設置市区、③保健所を設置しない市町村、に当てはまる方にお伺いします。あなたの立場で最も当てはまるものを選んでください。

32件の回答



4. 今回の活動報告リレーの視聴は、今年度何回目ですか。

36 件の回答



5-1) 鹿児島県・十島村の報告を聞き、活用したい取組みや興味深い内容がありましたか。

35 件の回答



5-2) それほどのような内容でしたか。(主な意見)

1. 平時からの災害への備え

- ・健康危機管理を見据え、平時から災害対応を意識した準備を行っていること。
- ・災害マニュアルや連絡体制など、平常時からの体制整備の重要性を再認識した。
- ・日頃の保健活動で得ている地域情報が、災害時の支援に活かされることを実感した。

2. 住民・関係機関との関係づくり

- ・日頃から顔の見える関係を築いておくことが、災害時の対応につながる。
- ・住民や地域の関係者との信頼関係が、安否確認や避難対応の円滑化に寄与している点。
- ・行政だけでなく、住民を巻き込んだ備えの重要性を感じた。

3. 災害時の保健活動と対応

- ・地震発生直後から現地状況を把握し、保健活動を開始していたこと。
- ・全島民の安否確認が短時間で終わるなど、実践的な対応が参考になった。
- ・災害時における保健師の役割や情報収集・報告の重要性を再認識した。

4. 支援と役割分担の考え方

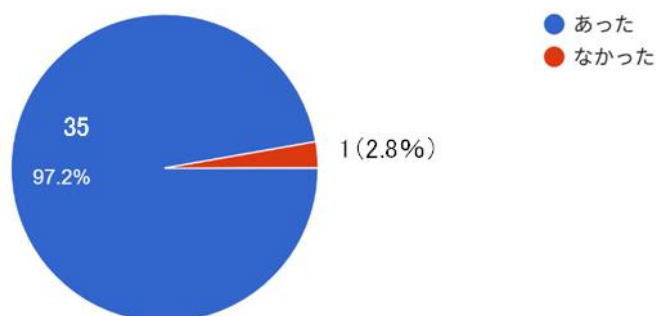
- ・災害時には「任せることは任せる」という支援の考え方が重要であること。
- ・他機関に支援を依頼する際には、必要な支援内容を明確にすることが大切であると感じた。
- ・自分たちが担うべき役割に集中するという視点が参考になった。

5. 離島・小規模地域における災害対応

- ・離島地域における災害対応の実際や、遠隔地からの保健活動のあり方が参考になった。
- ・小規模地域でも、日頃のつながりや体制整備により災害対応が可能となることを学んだ。

6-1) 島根県・知夫村の報告を聞き、活用したい取組みや興味深い内容がありましたか。

36件の回答



6-2) それほどのような内容でしたか。(主な意見)

1. 保健活動の業務整理と役割の見直し

- ・保健活動の業務整理を行い、保健師が担うべき業務と他職種でも担える業務を整理した点。
- ・事務職との役割分担を行うことで、業務の見直しや効率化につながっていたこと。
- ・保健師の専門性や役割を改めて考える機会となった。

2. 保健師不在時の保健活動の工夫

- ・常勤保健師が不在の状況でも、他職種や関係機関と連携しながら保健活動を継続していたこと。
- ・自分たちでできること、外部に支援を求めることを整理しながら対応していた点が参考になった。
- ・困難な状況の中でも、地域住民に不利益が生じないよう取り組んでいた姿勢が印象的であった。

3. 住民主体の保健活動への視点

- ・保健師がいない状況を契機として、住民主体の取組や地域の力を活かす視点に着目したこと。
- ・住民や地域資源を活用した保健活動の重要性を感じた。

4. 関係機関との連携

- ・他機関の保健師や関係機関と連携しながら地域保健活動を実施していたこと。
- ・困ったときに相談し、適切な機関につなぐことの大切さを再認識した。

5. 人材確保と今後の課題

- ・小規模自治体における保健師確保の難しさと、そのための取組の重要性。
- ・人材確保が難しい状況を踏まえ、業務の棚卸しや体制づくりを検討する必要性を感じた。

7. 鹿児島県・十島村にメッセージがあればお願いします。(抜粋)

- ・移動だけでも大変だと思います。保健師は相手と会うことが重要なので、会える機会を大事にされているからこそ内容の濃い活動になっているのだと思いました。これからも頑張ってください。
- ・離島に居住してなくても住民と信頼関係を構築し、住民のことを深く理解しながら保健活動を実践されている点が印象的でした。
- ・普段からのつながりは、それまで取り組まれてきたことの賜物だと感じました。どうかお身体にお気をつけて、これからも後輩となる保健師や看護師の人材育成をよろしく願いいたします。
- ・そこに住まう人々への尊敬の気持ちが伝わり、保健師という存在が地域の人々をつなぐ役割を持っているのだと改めて感じました。
- ・役場職員や住民と協力し合える関係を築かれているところが素晴らしいと思いました。

- ・災害はいつ起きるかわからないため、日頃からの関係づくりが重要であることを改めて感じました。
- ・地域のつながりの大切さを改めて理解することができました。報告お疲れ様でした。元気をもらいました。
- ・離島という距離は問題ではなく、常に住民に寄り添って活動されていることが印象に残りました。
- ・頻発する地震の中での保健活動について話を聞くことができ、とても学びを深めることができました。
- ・住民の安否確認のスピードに驚きました。日頃の訓練や準備の大切さを学ぶことができました。

8. 島根県・知夫村にメッセージがあればお願いします。（抜粋）

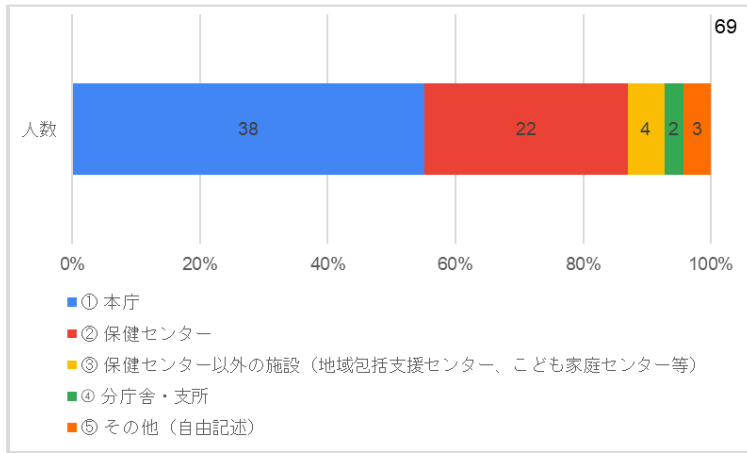
- ・保健師以外の職種がないことはあっても、保健師がない自治体はあまり聞いたことがなく、大変感銘を受けました。今後人材確保が難しくなることも踏まえ、業務の在り方を考えるきっかけになりました。
- ・保健師がいなくて何が起きるのかを教えてくださいありがとうございました。記録をとって全体像を可視化し、応援に入った人がすぐ動けるようにする工夫は日頃の業務にも通じると感じました。
- ・村に保健師を取り戻すために、保健師ではない立場から大変な努力をしてこられたお話に感銘を受けました。村民のためという思いが伝わってきました。
- ・常勤保健師のいない自治体もあるということを初めて知りました。他職種が協力して保健活動を行うことで、役場全体の意識が変わったという点が印象的でした。
- ・保健師ではなくとも村の職員として保健事業を進めておられる姿が印象に残りました。今後は多職種協働がさらに重要になると感じました。
- ・保健師が不在の期間の保健活動についてのお話はとても貴重で、人材確保の難しさを考える上でも参考になりました。
- ・常勤保健師がいない中で業務整理や関係機関との連携を進めながら保健活動を継続されてきたことに、努力の大きさを感じました。
- ・保健師一人でも多くの人と協働して保健活動を進めていけることに希望を感じました。
- ・さまざまな工夫を行いながら保健活動を続けてこられた姿勢を見習いたいと思いました。
- ・保健師が不在の中で保健事業を行うのは想像以上に大変だったと思います。培ってこられたノウハウをぜひ新人保健師に伝えていただきたいと思いました。

9. 本報告会の感想・意見等お聞かせください。（抜粋）

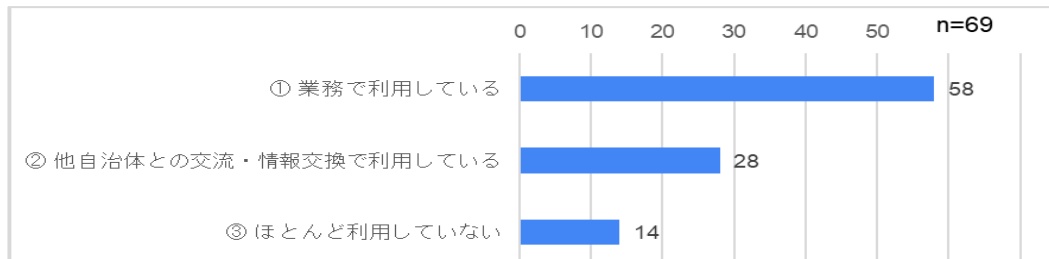
- ・様々な自治体の状況を知ることができて良かったです。特に県内では突出して小規模なので仲間外れ感を感じていましたが、全国規模で見れば珍しくないと知ることができ、安心しました。ありがとうございました。
- ・極小規模町村での保健師活動は普段知る機会がないので、新たな視点を得ることができました。次年度以降の開催も希望します。
- ・保健師がいなくなった時に残された職員でどう乗り越えなければならないのかの実例を知ることができ、人材確保について考えるきっかけになりました。
- ・小規模自治体の災害対応や、保健師不在の中での保健活動について大変勉強になりました。自分の自治体でも起こり得ることなので、お話を聞いてよかったです。
- ・それぞれの地域特性に合わせて工夫されていることを知ることができ、とても参考になりました。
- ・短い時間でしたが、活動内容と要点がよく伝わってくる研修会で、大変勉強になりました。
- ・実際に災害が起きた際に活かせる取り組み等を学ぶことができました。
- ・極小規模自治体の保健活動について聞く機会はこれまであまりなかったため、大変勉強になりました。
- ・参考になる内容でしたので、次年度以降も継続して開催していただけるとありがたいです。
- ・毎回貴重な機会をありがとうございます。共感できる部分や参考になる点が多くありました。

【小規模町村保健師対象】活動報告リレー アンケート結果

1. あなたの所属について、最も当てはまるものを選んでください。



2-1. あなたは日常業務や他自治体との情報交換・交流において、SNS、ビジネスチャット、オンライン会議システムなどの ICT やオンラインツールを利用していますか？該当するものをすべて選択し、具体的なツール名や利用方法があればご記載ください。(複数回答)



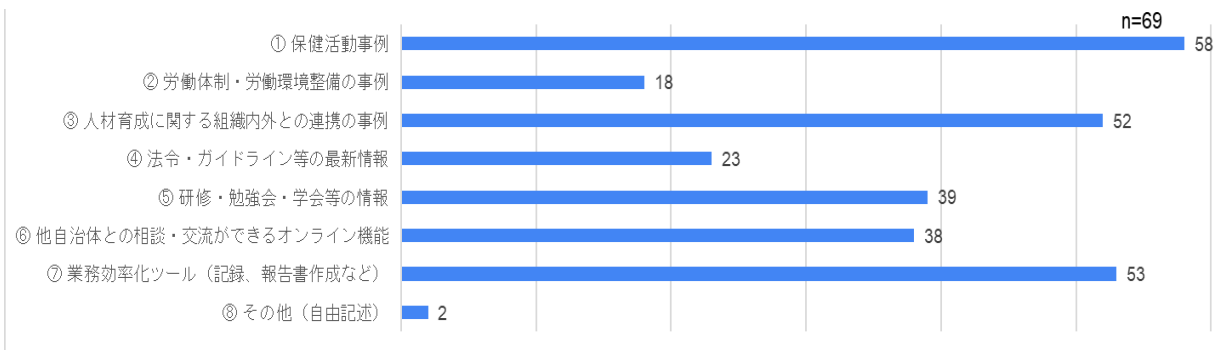
2-2. ①②の回答者：具体的に利用しているツールやサービス名、利用目的をご記入ください(自由記述整理)

区分	主なツール	利用目的	具体内容
オンライン会議	Zoom、Webex、Teams	会議・打ち合わせ	庁内会議、他自治体・県・関係機関との会議、遠隔拠点との打ち合わせ
オンライン会議	Zoom、Webex、Teams	研修・説明会	研修会、説明会、意見交換会への参加
ビジネスチャット	□ゴチャット、LINE WORKS、LG-Talk、庁内チャット	情報共有・業務連絡	職員間連絡、資料共有、自治体内の情報共有
SNS・非公式ツール	LINE	周知・インフォーマル連携	住民への周知、外部団体との連絡、保健師間の情報共有

2-3. ③の回答者：その理由をお聞かせください(自由記述整理)

区分	内容
知識・スキル	方法が分からない
環境・設備	機材・システム未整備
組織運用	導入済みだが未普及、継続利用なし
必要性	対面・電話・メールで代替可能
制約	時間調整が必要で使いにくい
利用機会	研修・会議時のみ、単発利用

3. 小規模町村の活動で、どのようなオンラインでの情報や情報ツールがあれば役立つと感じますか。(複数回答)



その他：人口・面積・高齢化率・出生数と実働の正規・会計年度の保健師数のデータベース、AI 活用勉強会

4. 都道府県や保健所に人材育成において期待する役割がありましたらご記載ください。(自由記述整理)

【人材確保】

- ・人材確保に関する支援・助言
- ・都道府県からの情報提供や広域的な人材確保支援
- ・都市部からの人材確保に向けた発信
- ・養成校の定員増や育成基盤の整備

【研修・人材育成支援】

- ・広域での研修会の企画・開催（新任期・中堅期・管理期）
- ・小規模自治体向けの実践的な研修機会の提供
- ・業務別研修や効率化に関する情報共有の場の設定
- ・看護過程など基礎能力の継続的な育成支援
- ・他自治体保健師との交流機会の確保

【キャリアラダー・育成体制】

- ・キャリアラダーの普及・活用支援
- ・評価面接の実施支援
- ・育成者（プリセプター）への研修
- ・中堅期以降の育成に関する具体的指針の提示

【広域支援・体制整備】

- ・単独自治体では困難な人材育成への広域的支援
- ・経験豊富な保健師（退職者等）の活用
- ・自治体のニーズを踏まえた支援体制の構築
- ・他職種（管理栄養士等）を含めた育成支援

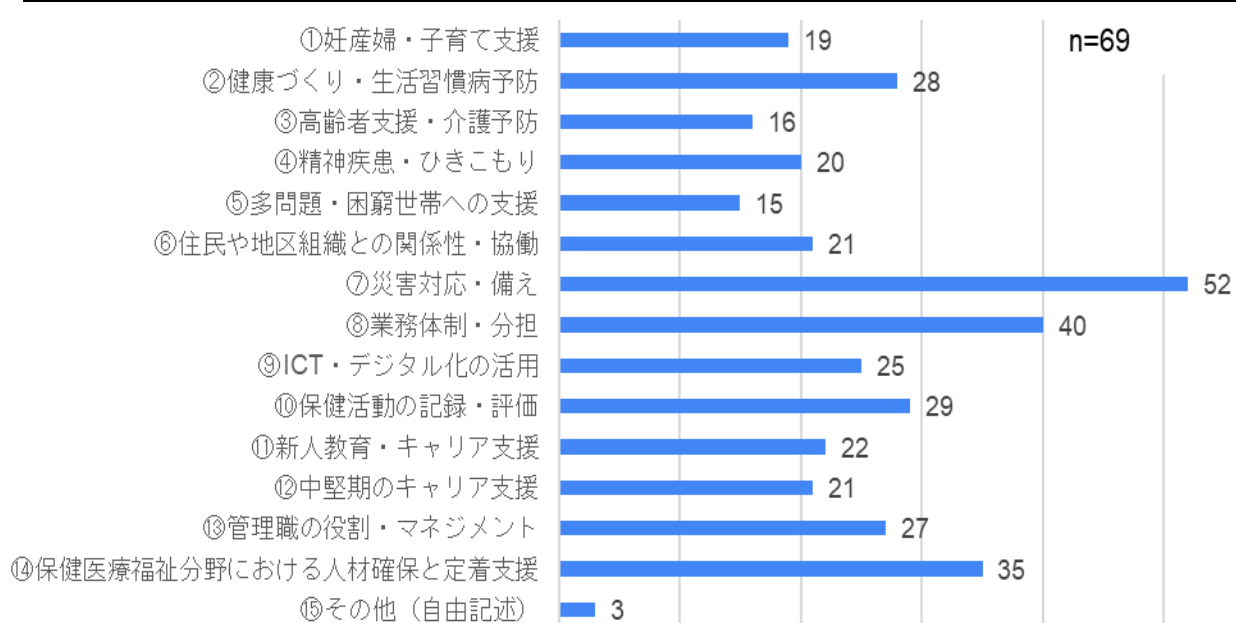
【保健所の役割・関与】

- ・現場と連携した実践的支援の強化
- ・新任期保健師への継続的な関与
- ・アドバイザーにとどまらない伴走型支援
- ・人材育成に関する質の向上

【課題・意見】


- ・保健所との関係性が希薄
- ・支援機会が限定的・継続性がない
- ・役割や方針が不明確との指摘
- ・人材育成における力量不足への懸念

5. オンライン情報交換会について、同規模の他自治体と情報交換をしたい項目を5つ選んでください。(複数回答)



その他：組織内での情報共有や保健師業務への理解不足に関するアプローチ、AI の保健活動への活用方法

2 小規模町村保健師オンライン情報交換会 〈チラシ〉



小規模町村保健師オンライン情報交換会 交流して見つけよう！ 人材育成・確保、保健活動のヒント

保健師の人材育成は、どの自治体にとっても課題となっています。とりわけ、人口1万人未満の小規模町村は、特有の課題があるにもかかわらず、同じ状況の自治体同士で情報交換する機会が乏しいのではないかと思います。同じ課題を抱える同規模自治体の保健師同士、オンラインで集い、語り合ってみませんか？


日程	内容
<p>令和7年12月8日(月) 15:00～17:00</p>	<p>1)小規模町村活動報告 リレーの振り返り 2)テーマ交流</p> <p>以下の中から希望するテーマを選んでいただき、同規模の自治体同士で交流できるようにグループを編成します。</p> <ul style="list-style-type: none">①組織としての保健師人材育成②自分自身の保健師としてのキャリア形成③人材確保と定着支援④職場内での保健師間の連携⑤管理的役割を担う保健師のマネジメント⑥保健福祉活動等の業務体制・分担⑦業務のスクラップ&ビルド⑧災害対応・備え⑨ICTの活用・デジタル化
方法	
<p>オンライン(ZOOM)</p> <ul style="list-style-type: none">・交流時にはビデオとマイクをオンにご参加いただけます。・原則一人一台の端末を使用してください。	
対象	
<p>小規模町村(概ね人口1万人未満)の保健師 定員:80名</p>	
<p>3)共有とまとめ</p>	

以下のURL、二次元コードから、**参加希望者一人ずつお申し込みください。**
申し込み期限は10月31日(金)11月19日(水)です。

申し込み方法
お問合せ先

URL <https://forms.gle/Aa4pkXmkyjkS9NFP6>
村上祐里香(山口大学大学院医学系研究科保健学専攻)
E-Mail:myurika@yamaguchi-u.ac.jp

申込期日延長



本事業は、令和7年度地域保健総合推進事業「小規模町村保健師人材開発のための活動報告リレー及び交流促進事業」として実施します。
分担事業者 牛尾 裕子(山口大学大学院 医学系研究科 保健学専攻教授)

<プログラム>

令和 7 年度 小規模町村保健師オンライン情報交換会

1 テーマ

交流して見つけよう！人材育成・確保、保健活動のヒント

2 目的

小規模町村の保健師が、同規模町村の保健師と交流することにより、課題や工夫を共有・情報交換し、人材育成や保健業務遂行のあり方を考える機会とする。

3 目標

- ・参加した小規模町村の保健師が、他の保健師と自治体の人材育成や保健業務遂行における課題と工夫を共有し、情報交換できる
- ・参加した小規模町村の保健師が、人材育成や保健事業の遂行に関して何らかのヒントを得ることができる

4 対象

小規模町村(概ね人口1万人未満)の保健師

5 日時

令和 7 年 12 月 8 日(月)15:00～17:00

6 開催方法

オンライン(ZOOM)

7 プログラム

時間	内容
15:00 ～ 15:08	開会挨拶・オリエンテーション
15:08 ～ 15:25	小規模町村活動報告リレー(第1回～第3回)の振り返り
15:25 ～ 16:20	グループ交流・情報交換
16:20 ～ 16:45	全体共有とまとめ
16:45 ～ 16:55	連絡事項とお願い 閉会挨拶

8 参加にあたっての連絡事項

- ・グループ編成は別紙をご参照ください。編成の都合上、グループメンバーの第1希望テーマが一致していません。ご了承ください。
- ・グループ交流は、情報交換したいこと(テーマ)を話し合ってから開始します。情報交換したいこと、それにかかわる自治体の状況をお話できるようにご準備ください。
- ・小規模町村保健師活動報告リレーのオンデマンド配信は、12月7日(日)までです。

9 問い合わせ先

村上祐里香(山口大学大学院医学系研究科保健学専攻)
E-Mail:myurika@yamaguchi-u.ac.jp

本事業は、令和7年度地域保健総合推進事業「小規模町村保健師人材開発のための活動報告リレー及び交流促進事業」として実施します。

分担事業者：牛尾裕子(山口大学大学院医学系研究科保健学専攻教授)

委員：山田洋子(岐阜県立看護大学)

石川麻衣(群馬大学大学院保健学研究科)

吹田 晋(国立保健医療科学院)

宮前美紀(日置市役所)

太田あゆ美(NPO 法人へき地保健師協会／東京慈恵会医科大学医学部看護学科)

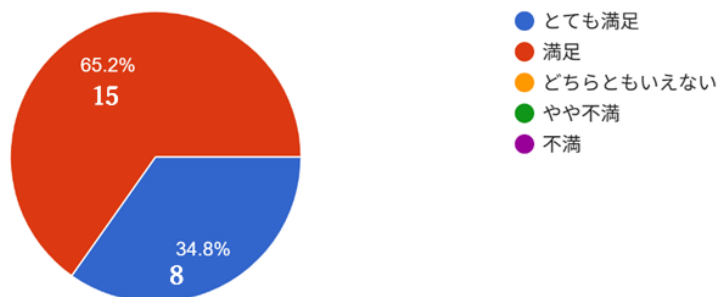
青木さぎ里(NPO 法人へき地保健師協会／自治医科大学看護学部)

村上祐里香(山口大学大学院医学系研究科保健学専攻)

令和7年度小規模町村保健師オンライン情報交換会 アンケート結果

問1 今回のオンライン情報交換に満足しましたか？

23件の回答

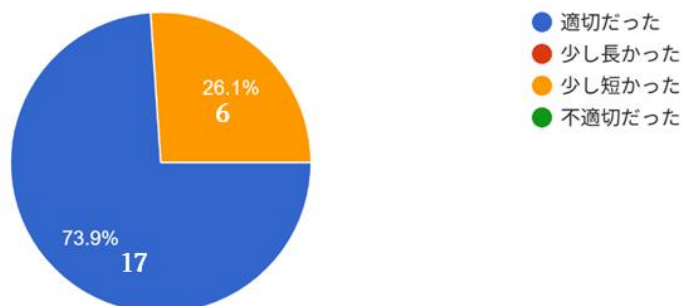


問1-2 そのように回答した理由をお書きください。（抜粋）

- ・似たような環境の自治体の方が困っていることを吐き出すことができたため。
- ・同じような規模同士だからこそ分かり合えることがあると感じ、楽しい時間でした。
- ・他の地域の小規模自治体と情報交換ができたため。
- ・同規模自治体の保健師と情報交換ができ、共感できる部分や参考になる情報を得ることができました。
- ・同じような悩みを感じている方たちと話すことができ、とても有意義でした。
- ・小規模自治体の保健師同士で悩みを共有でき、自分だけではないと感ずることができました。

問2 時間は適切でしたか？

23件の回答

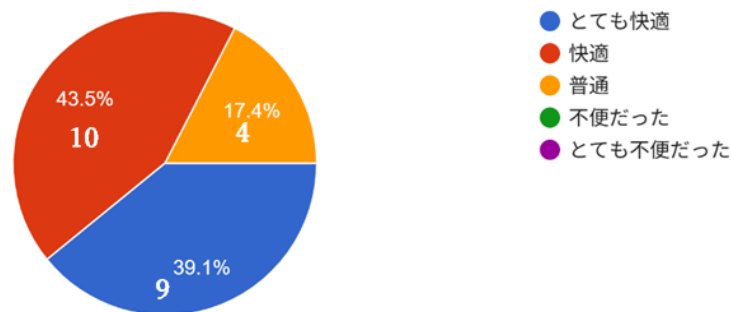


問2-2 そのように回答した理由をお書きください。（抜粋）

- ・少し足りないくらいが、また話したいと思えるから。
- ・意見交換の時間がもう少しあると、より深めることができたと感じた。
- ・あと30分くらいは欲しいと思いました。情報交換には短かったです。
- ・同じ小規模自治体の悩みを抱える他町村の方と話せる機会が少ないため、体感としては短く感じましたが、通常業務との兼ね合いを考えると適切だと思います。
- ・情報交換はもう少し時間があると良かった。
- ・所要時間が短く感じられるほど、内容を密に聞くことができました。
- ・無駄のない時間でよかったです。

問 3 参加環境（Zoomを使ったオンライン実施）は快適でしたか？

23 件の回答



問 3-2 そのように回答した理由をお書きください。（抜粋）

- ・集合研修だと移動時間がかかり参加しにくいいため、オンラインで参加できる点がよかった。
- ・Zoom は接続のストレスが少なく、参加しやすかった。
- ・どの地域からも参加でき、グループ分けもスムーズに行われていてよかった。
- ・出張等をしなくても参加できるところがよかった。
- ・音声などはよく聞こえ、特に不具合はなかった。
- ・画面が固まることもあったが、差し支えない程度だった。
- ・グループルームからの移動がスムーズにできない場面があった。

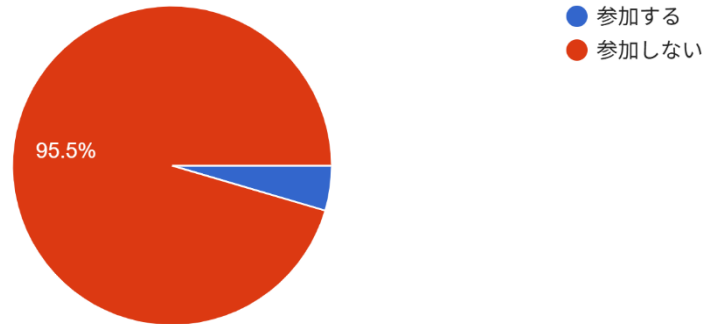
問 4 その他感想・ご意見があればお書きください。（抜粋）

- ・とても良い企画だと思います。今後も参加したいです。
- ・各グループの意見のまとめのような議事録をもらえるとありがたいです。
- ・関心のある内容に対し、自分も含めてある自治体保健師に質問が集中しました。とても参考になり良かったのですが、その方は不消化だったのではないかと気になりました。
- ・各自治体の基本情報（人口、高齢化率、保健師数など）は事前に資料として集約いただき、データとして見ることができると、情報交換時間の短縮につながるのではと思いました。
- ・ざっくばらんに話すことができたので良かったです。発表市町村と同じグループだったのでその市町村の概要はわかりやすかったが、それ以外の市町村で基礎情報（人口、高齢化率、保健師の配置数など）が事前にあるとなんとなく、その市町村もイメージしやすいのかなと感じました。
- ・私のグループは、意見交換のほとんどの時間を私自身の悩みについてアドバイスいただく形となった。しかし、いずれも取り組んでは庁内の管理職（事務）の方に理解してもらえず行き詰まってしまったものであった。先輩方の貴重な経験をもとに沢山のアドバイスを頂き、残り時間わずかというところだったので、申し訳なさからそのような話をする事ができなかった。「自治体として保健医療福祉に対する意識がない×所属する保健師の経験年数がみな浅く意見に耳を傾けてもらえない」という状況で保健活動を進めることに、改めて強い困難感を感じた。今回は、参加の機会をいただきありがとうございました。この地域保健総合推進事業に勇気づけられてきます。今後の活動報告リレー・情報交換会ともに楽しみにしております。
- ・県外の町村の様子を知ることができて良かった。近隣町村は昔から知っているとおおよそ内容を知っているが、まったく知らない土地の町村のことは知る機会がほとんどない。ネット会議により情報交換会が実現できて嬉しかった。
- ・全国の小規模自治体で働く保健師と交流できる機会は本当に貴重で、ありがたかった。
- ・このような機会をいただき、ありがとうございました。

小規模町村保健師オンライン情報交換会 ニーズ調査結果

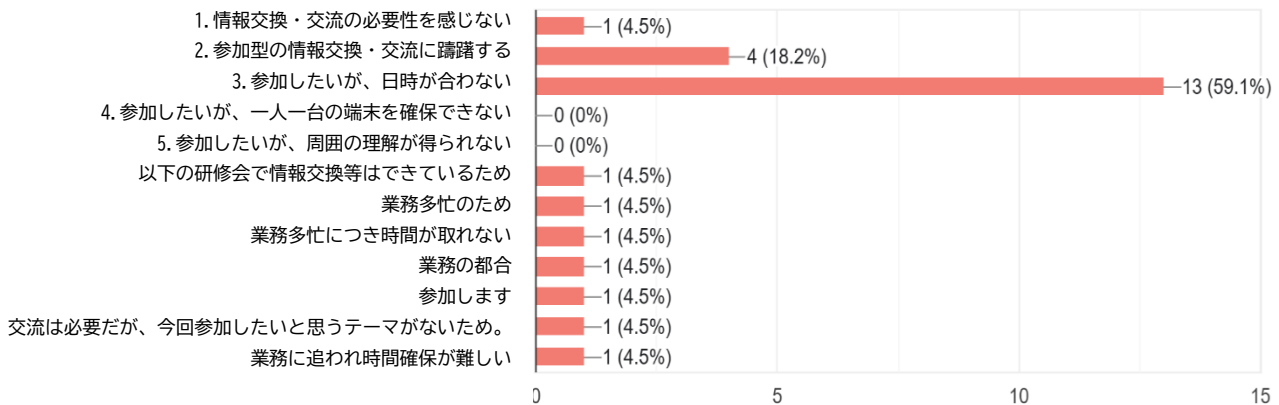
1. 情報交換会への参加 ※1名参加する人が回答

22件の回答



2-1. 参加しない理由を教えてください（複数回答）。

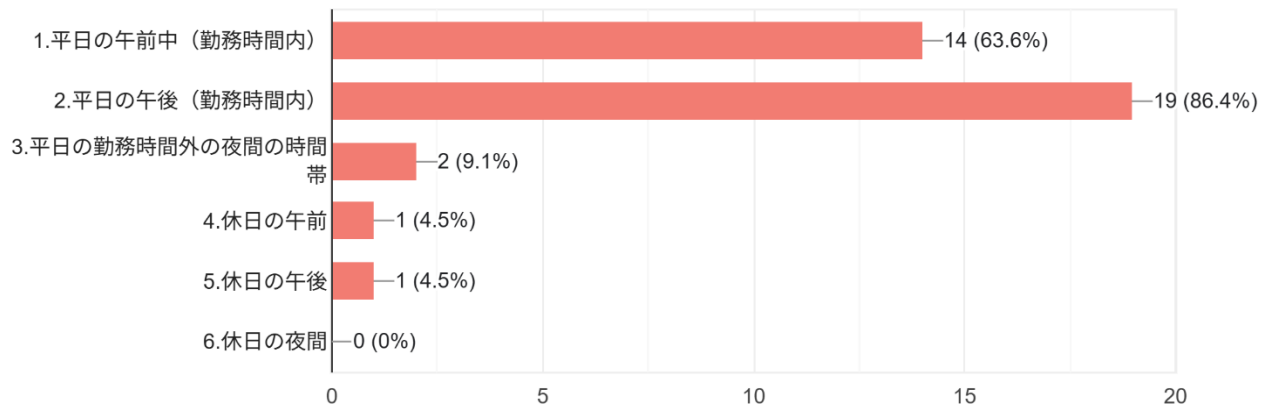
22件の回答



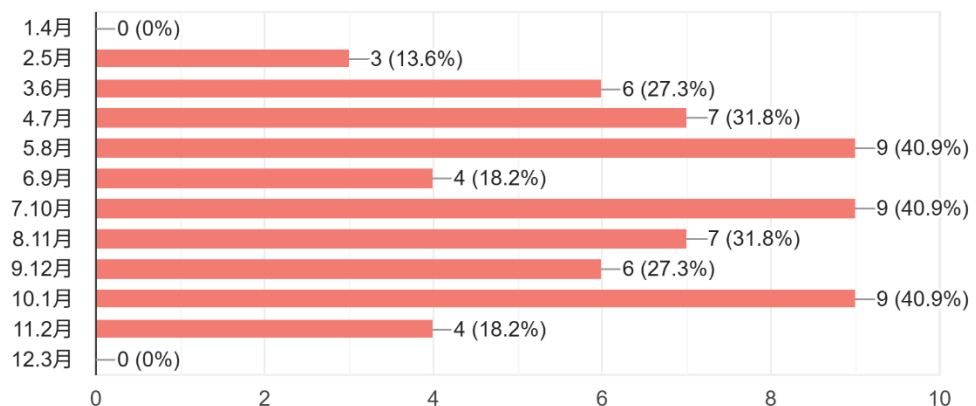
2-1の回答の理由や詳しい状況を教えてください。

- ・業務の都合
- ・業務の都合がつかなかった
- ・現在地域包括支援センター担当しており、ケース対応に追われている
- ・業務が多忙につき時間を確保することが難しい。また同様の取組が今年度厚労省事業にあり。
- ・現在業務量が多いため不参加とした。（ちなみに参加者が80人は、全国規模で開催するのに、少ないのでは・・・）
- ・業務量に対し保健師欠員が続いているため慢性的多忙感。
- ・12月は当初予算査定や議会があり、日程の都合がつきにくい。
- ・12月は予算入力や査定に向けた協議などに追われます。開催時期をご検討いただけますと幸いです。
- ・すでに予定があり参加できません。申し訳ありません。
- ・現在、小規模市町村保健師育成支援事業研修会にも参加しており、そこでも情報交換や交流の機会は得られているから。
- ・育成する人材が少ないため。人材確保については、総務部への呼びかけをしてほしい。

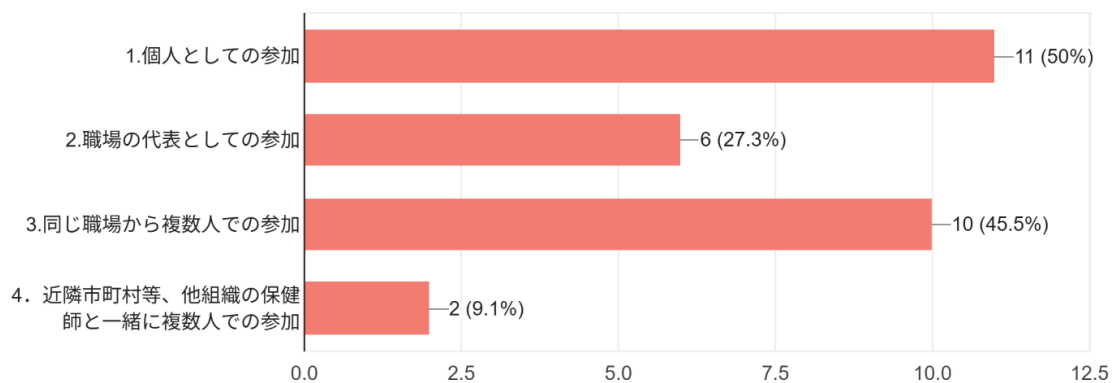
3. 今後、オンライン情報交換会を開催する場合、どの時間帯だと参加しやすいですか？（複数回答） 22 件回答



4. 今後、オンライン情報交換会を開催する場合、どの時期だと参加しやすいですか？（複数回答） 22 件回答



5. 今後オンライン情報交換会を開催する場合、どのような参加方法が参加しやすいですか？（複数回答） 22 件回答



6. 参加したいが今回参加できない方は、上記質問以外に、どのような条件、内容、環境等があれば参加が可能となりますか。自由なご意見を教えてください。（自由記載）

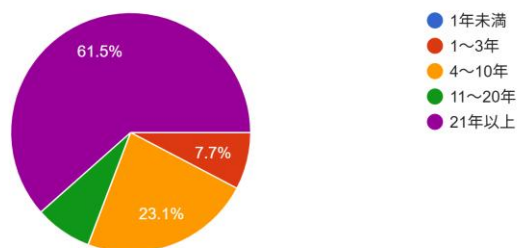
- ・地域包括支援センター勤務対象の研修
- ・案内時期が早期の方が日程調整しやすいです
- ・自分の職場では、仕事をしたくない先輩保健師が数名おり、みなその空気に飲まれ向上心がなくなっている。その環境下で自分だけ参加するのは難しいので、職場の代表より個別参加の形式のほうががいいです。

3 小規模町村保健師ネットワーク化の検討に関する資料 ＜質問紙調査結果(一部)＞

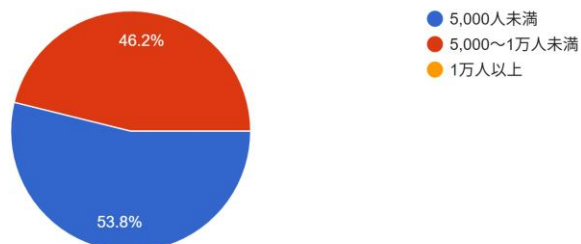
資料 1

1. あなたの勤務状況について教えてください。

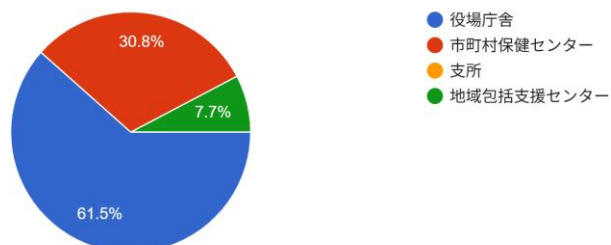
1-① 勤務年数
13件の回答



1-② 所属自治体の人口規模
13件の回答



1-③ 所属形態
13件の回答



2. 保健師として、日々の実践の中で困っていることがありますか。（複数回答）

	回答数 (%)
業務に必要な知識、技術、情報を得る機会がない	3 (23.1%)
業務に必要な知識、技術、情報を得る時間がない	7 (53.8%)
所属機関、関係機関、地域住民との関係性づくりが難しい	2 (15.4%)
ケース対応や業務の優先度に迷う、	4 (30.8%)
自信が持てない業務がある	7 (53.8%)
職場で相談相手がいない	2 (15.4%)
同僚や先輩、後輩が異動・退職・休職したことにより、業務に影響が出ている	5 (38.5%)
困っていることはない	0 (0%)

その他：自由記載(4)

- ・ 人材確保の問題
- ・ 個々の保健師への指導が十分できておらずリーダーとしての役割が十分果たせていない。自信が持てない業務は統括業務です。
- ・ 国の目指す理想の形はすぐ理解できるが、やるのがいくつもあって体制を整えられない。でもやってないわけではない。そのところが国に伝わらない。
- ・ 保健師などの専門職は、専門職としてではなく、一般事務として資格保有者を採用するスタンスだと入職後に説明を受けた。指導・助言をいただける先輩保健師がいない中、2 人の新任保健師が手探りで保健師業務を行いながら当然のように一般職として契約書等の事務作業を求められることに困難感を感じる。

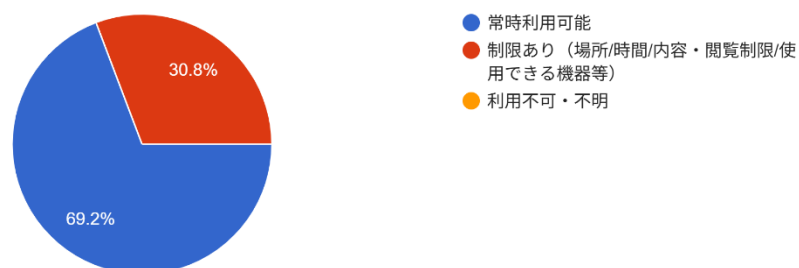
3. 保健師として日々の実践を行う中で、どのような情報や支援があると助かりますか。（複数回答）

	回答数 (%)
他地域の事例を簡単に見られる資料	8 (61.5%)
似た立場の保健師とつながれる場	13 (100%)
オンラインでのミニ研修や学びの機会	10 (76.9%)
疑問を気軽に投稿できる掲示板やチャット	6 (46.2%)
メンタル面のフォローや悩みの共有	8 (61.5%)
当てはまるものはない	0 (0%)

その他：自由記載(0)

4. 勤務先と自宅のインターネット環境

4-① 勤務先のインターネット環境
13 件の回答



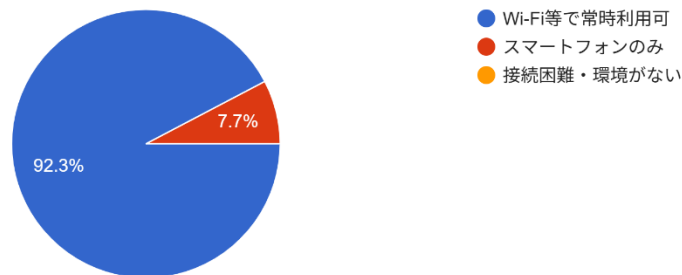
4-② 4-①勤務先のインターネット環境「制限あり」の内容

4件の回答

- ・ 使用できるPCが決まっており、Wi-Fiが届く範囲に制限がある。
- ・ 閲覧できるものに制限がかかっている。
- ・ 所属する課内15人に2台しかないため、あらかじめ予約しないと使えないことがある。
- ・ 共同で利用している職員がいるのでお互いにオンライン会議などがある時は調整が必要。

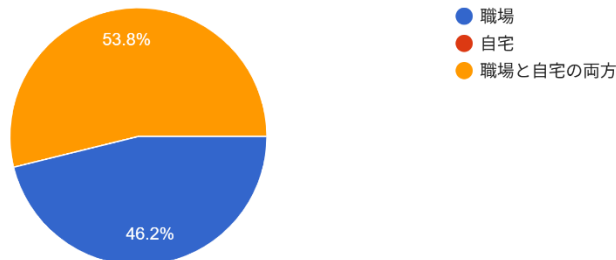
4-③ 自宅のインターネット環境

13件の回答



4-④ 保健師活動交流プラットフォームにアクセスするとしたら、どこからアクセスしますか

13件の回答



5. 使用経験のあるツール（複数回答）

	回答数 (%)
Google フォーム・スプレッドシート	8 (61.5%)
LINE (個人・オープンチャット)	13 (100%)
LOGO チャット	10 (76.9%)
Slack	6 (46.2%)
Teams	
Webex	
Zoom	
どれも使ったことがない	8 (61.5%)

<質問紙調査票>

資料 2

小規模町村保健師の人材育成における課題とニーズ ーネットワーク形成に着目してー 質問紙調査

○本研究に同意しますか。

同意する

同意しない（調査終了）

1. あなたの勤務状況について教えてください。

① 勤務年数

1 年未満

1～3 年

4～10 年

11～20 年

21 年以上

② 地域規模（人口規模）

5,000 人未満

5,000～1 万人未満

1 万人以上

③ 所属形態

役場庁舎

市町村保健センター

支所

その他：

2. 保健師として、日々の実践の中で困っていることがありますか。

あてはまるものすべてにチェックをしてください。

業務に必要な知識、技術、情報を得る機会がない

業務に必要な知識、技術、情報を得る時間がない

所属機関、関係機関、地域住民との関係性づくりが難しい

ケース対応や業務の優先度に迷う

自信が持てない業務がある

職場で相談相手がいない

同僚や先輩、後輩が異動・退職・休職したことにより、業務に影響が出ている

困っていることはない

3. 保健師として日々の実践を行う中で、どのような情報や支援があると助かりますか。

あてはまるものすべてにチェックをしてください。

他地域の事例を簡単に見られる資料

似た立場の保健師とつながれる場

オンラインでのミニ研修や学びの機会

疑問を気軽に投稿できる掲示板やチャット

メンタル面のフォローや悩みの共有

あてはまるものはない

その他:

4. 勤務先と自宅のインターネット環境について教えてください。

4-① 勤務先のインターネット環境

常時利用可能

制限あり (場所/時間/内容・閲覧制限/使用できる機器等)

利用不可・不明

4-② 上記4-①勤務先のインターネット環境について、「制限あり」と回答した方に伺います。どのような制限があるのか、教えてください。(自由記述)

4-③ 自宅のインターネット環境

Wi-Fi 等で常時利用可

スマートフォンのみ

接続困難・環境がない

4-④ 保健師活動交流プラットフォームにアクセスするとしたら、どこからアクセスしますか。

職場

自宅

職場と自宅の両方

5. 以下のツールについて、使用経験のあるものすべてにチェックをしてください。

Google フォーム・スプレッドシート Teams

LINE (個人・オープンチャット) Webex

LOGO チャット ZOOM

Slack どれも使ったことがない

その他:

6. 他の職場・自治体の保健師等とつながるとしたら、どのような方法が望ましいですか？
あてはまるものにすべてチェックをしてください。

匿名で相談できるチャット

オンライン掲示板

定期的なオンライン情報交換会（オンラインサロン・オンラインカフェ等）

テーマ別勉強会

エッセイリレー ※特定のテーマで1人がエッセイを書き次の人へ繋ぐことを繰り返す企画

多くの参加者が一堂に会するフェスティバル型のオンライン交流会

あてはまるものはない

その他：

7. プラットフォーム内での交流について、あなたの希望に近いものを選んでください。

実名でも構わない

ニックネームなど匿名で参加したい

使い分けられる形がよい（相談は匿名、研修は実名など）

わからない

8. 今後、プラットフォーム等で情報を得たり交流したりしたいと思う項目について、
最大5つまでチェックを入れてください。

妊産婦・子育て支援

保健業務の効率化

思春期保健・小中高等学校との連携

新人教育・キャリア支援

健康づくり・生活習慣病予防

中堅期のキャリア支援

高齢者支援・介護予防

管理的立場の保健師の活動・管理業務

精神疾患・ひきこもり

新規採用された経験者の教育・支援

他問題・困窮世帯への支援

学生の指導，実習指導

災害対応・備え

保健医療福祉分野における人材確保と

業務体制・業務分担

定着支援

ICT・DX等デジタル技術の活用

あてはまるものはない

保健活動の記録・評価

その他：

9. 最後に、小規模町村保健師の人材育成における課題とニーズに関して、ご意見がございましたらご記入をお願いいたします。（自由記述）

<グループインタビューガイド>

資料 3

グループインタビュー ガイド

1. 調査の目的

小規模町村で働く保健師にとって実用的かつ継続的に利用されるプラットフォームを設計するために必要な要件を抽出する。

2. 対象と方法

対象：小規模町村人口 1 万人未満) に勤務する保健師

方法：オンラインでのグループインタビュー (60 分予定)

記録：発言内容は匿名で整理し、調査以外の目的には使用しない

3. 進行の流れ (時間配分)

1) 導入 (5分)

調査の趣旨・記録方法の説明

インタビューのルール (自由に、否定しない、順番は自由) 確認

アイスブレイク：「最近の業務で印象に残った出来事」を一言ずつ

2) 主テーマ (45分)

① 現在の業務とその課題 (約 10 分)

② 情報収集・スキルアップの手段 (約 8 分)

③ デジタルツール・オンライン活用状況 (約 8 分)

④ 理想的な支援・仕組み像 (約 10 分)

⑤ 継続的に使うために必要な要素 (約 9 分)

3) まとめ (10分)

今日の話で「特に重要」と思った点を一人ずつ共有

研究の次のステップ (報告・フィードバック予定) を案内

4. 質問項目 (主質問+フォロー質問)

① 現在の業務とその課題

主質問：皆さんの業務の中心はどんな内容ですか？

主質問：日々の業務で「孤立している」「サポートが足りない」と感じるのはどんな場面ですか？

フォロー：他職種や地域との連携で難しさを感じることは？

フォロー：他自治体や保健師との情報共有はどのようにしていますか？

② 情報収集・スキルアップの手段

主質問：知識や事例は、普段どこから得ていますか？

主質問：困ったときに相談する相手はいますか？気軽に相談できますか？

フォロー：研修や勉強会に参加できていますか？参加が難しい理由は？

フォロー：役立った研修や学びの経験はありますか？

③ デジタルツール・オンライン活用状況

主質問：メールや Zoom、チャットなどのオンラインツールはどのくらい業務で使っていますか？

主質問：LINE や Slack などのグループチャットに抵抗はありますか？

フォロー：オンラインで「学ぶ」「相談する」なら、どんな形式が使いやすいですか？

フォロー：すでに使っているツールで便利・不便を感じる点は？

④ 理想的な支援・仕組み像

主質問：「こんな仕組みがあったら助かる」と思う支援や情報提供の形はありますか？

主質問：他自治体の保健師とつながる場があるとしたら、どんな内容・頻度・形式が良いですか？

フォロー：匿名相談、症例共有、地域活動の紹介など、関心がある機能は？

フォロー：実際にあれば参加してみたいですか？不安やハードルは？

⑤ 継続的に使うために必要な要素

主質問：一度使ってみたくなる「きっかけ」は何ですか？

主質問：続けて使おうと思うのは、どんなときですか？

フォロー：「使わなくなる」としたら、どんな理由がありそうですか？

フォロー：続けて利用している場や研修があれば、その理由は？

5. 進行上の留意点

誰か一人に偏らず、全員から意見が出るように声をかける

参加者の発言を否定せず「そういう意見もあるんですね」と受け止める

時間が押したら、適度に区切って次のテーマへ進む

雑談や笑いも場を和ませる要素として歓迎する

<研究協力依頼書(1)>

資料 4

令和 7 年〇月〇日

オンライン情報交換会の参加者 様

研究への御協力について(依頼)

私達は、「小規模町村保健師の人材育成支援に向けた課題とニーズ – ネットワーク形成に着目して –」をテーマに、小規模町村で働く保健師が人材育成や保健活動において直面する課題やニーズ等を明らかにし、小規模町村保健師が求める有効かつ持続可能な交流プラットフォームの目的・機能・運営方針を設計するために研究に取り組みたいと考えています。

つきましては、御多用中恐縮ですが、下記の通り①質問紙調査と②グループインタビュー調査(オンライン)協力申し出につきまして、お願いしたいと存じます。詳細は同意説明文書をご確認ください。

なお、調査にあたり、研究協力への同意に対する自由、データの目的外使用の禁止、データ等の個人情報の厳重管理、同意撤回(グループインタビュー調査が対象)について遵守いたします。

本研究を行うにあたり、山口大学大学院医学系研究科保健学専攻生命科学・医学系研究倫理審査委員会の承認を得ています。本研究結果は、小規模町村保健師人材開発のための活動報告リレー及び交流促進事業報告書及び関連学会等で公表する予定です。

本研究についてのご不明な点、または終了後の不安や疑問につきましても対応させていただきますので、下記連絡先〇〇宛てにご連絡ください。

記

【①質問紙調査】

- 1 調査対象者
オンライン情報交換会(2025年12月8日)に参加した小規模町村保健師
- 2 調査内容
①勤務年数・所属・地域規模など基本属性、②実務上の困りごと、③必要とする支援や情報、④インターネット環境やデジタルツールの使用経験、⑤望ましい交流形式・頻度、⑥匿名性に関する希望、⑦関心テーマ等
- 3 調査方法(10~15分程度)
オンライン情報交換会終了後、アンケートフォームにて回答

【②グループインタビュー調査(オンライン)】

- 1 調査対象者
オンライン情報交換会(2025年12月8日)に参加した小規模町村保健師
・人口1万人未満の町村に所属し、常勤として勤務している保健師
・現在の職位や経験年数を問わず、保健師として勤務している者
※保健師資格を有さない職員(例:看護師や事務職で「保健師業務補助」を担う者)除く
- 2 調査内容
①現在の業務とその課題、②情報収集・スキルアップの手段、
③デジタルツール・オンライン活用状況、④理想的な支援・仕組み像、
⑤プラットフォームを継続的に使うために必要な要素等
- 3 調査方法(60分程度)
質問紙調査の回答の最後から、インタビュー調査の協力申し出を受けるサイトに移動し、意向をお受けします。
後日、いただいた連絡先にご連絡し、参加の意思を再度確認した後、協力いただける際にはインタビュー日程を調整します。

<連絡先>本調査について、不明な点、お気づきの点がありましたら、下記までご連絡ください。

研究代表者: 村上祐里香(山口大学医学系研究科保健学専攻助教)

〒755-8505 山口県宇部市南小串 1-1-1 TEL/FAX: 0836-22-2852 myurika@yamaguchi-u.ac.jp

共同研究者: 牛尾裕子(山口大学)、石川麻衣(群馬大学)、青木さぎ里(自治医科大学)、太田あゆ美(東京慈恵会医科大学)、山田洋子(岐阜県立看護大学)、吹田晋(国立保健医療科学院)

研究協力者: 宮前美紀(日置市役所)

<研究協力依頼書(2)>

資料5

令和7年〇月〇日

インタビュー対象者様

研究への御協力について(依頼)

私達は、「小規模町村保健師の人材育成支援に向けた課題とニーズーネットワーク形成に着目してー」をテーマに、小規模町村で働く保健師が人材育成や保健活動において直面する課題やニーズを明らかにし、小規模町村保健師が求める有効かつ持続可能な交流プラットフォームの目的・機能・運営方針を設計するために研究に取り組みたいと考えています。

つきましては、御多用中恐縮ですが、下記の通りインタビュー調査への御協力をお願いしたいと存じます。ご協力いただける場合は、～(依頼した研究メンバー)まで令和7年●月●日までにご連絡をください。

なお、調査にあたり、研究協力への同意に対する自由、研究協力の同意撤回の自由、データの目的外使用の禁止、データ等の個人情報の厳重管理について遵守いたします。

本研究を行うにあたり、山口大学大学院医学系研究科保健学専攻生命科学・医学系研究倫理審査委員会の承認を得ています。本研究結果は、小規模町村保健師人材開発のための活動報告リレー及び交流促進事業報告書及び関連学会等で公表する可能性があります。

本研究についてのご不明な点、または終了後の不安や疑問につきましても対応させていただきますので、下記連絡先〇〇宛てにご連絡ください。

記

- 1 調査対象者
 - ・人口1万人未満の町村に所属し、常勤として勤務している保健師
 - ・現在の職位や経験年数を問わず、保健師として勤務している者
 - ・オンライン情報交換会(2025年12月8日)に参加した者※保健師資格を有さない職員(例:看護師や事務職で「保健師業務補助」を担う者)除く
- 2 調査方法
グループインタビュー調査(オンライン)
- 3 調査内容
 - ①現在の業務とその課題、②情報収集・スキルアップの手段、③デジタルツール・オンライン活用状況、④理想的な支援・仕組み像、⑤プラットフォームを継続的に使うために必要な要素等
- 4 調査日時 協力申し出者が確定したのちに日程調整をさせていただきます。
令和7年12～1月ごろ
- 5 調査所要時間 60分程度

<連絡先>本調査について、不明な点、お気づきの点がありましたら、下記までご連絡ください。

研究代表者: 村上祐里香(山口大学医学系研究科保健学専攻助教)

〒755-8505 山口県宇部市南小串1-1-1 TEL/FAX: 0836-22-2852 myurika@yamaguchi-u.ac.jp

共同研究者: 牛尾裕子(山口大学)、石川麻衣(群馬大学)、青木さぎ里(自治医科大学)、太田

あゆ美(東京慈恵会医科大学)、山田洋子(岐阜県立看護大学)、吹田晋(国立保健医療科学院)

研究協力者: 宮前美紀(日置市役所)

<同意説明文書>

医学系研究「小規模町村保健師の人材育成における課題とニーズ ーネットワーク形成に着目してー」ご協力をお願い

1. はじめに

この説明文書は、生命科学・医学系研究「小規模町村保健師の人材育成における課題とニーズーネットワーク形成に着目してー」へのご協力をお願いするにあたり、その詳細を説明した文書です。この文書は、あなたが本研究に参加するかどうか決めていただく際に、研究責任者による説明を補い、この研究の内容を理解していただくために用意しました。よくお読みになり、わからない点や疑問点がありましたら、研究責任者に遠慮なくお尋ねください。

なお本研究は、研究の実施に先立ち、山口大学大学院医学系研究科保健学専攻生命科学・医学系研究倫理審査委員会（以下、「倫理審査委員会」という）において生命科学・医学系研究実施計画書、同意説明文及び同意書の内容と研究実施の適否に関して、倫理的・科学的妥当性の観点から審査を受け、承認されており、保健学専攻長から研究実施の許可を得ています。

2. 研究の目的及び意義について

小規模町村では、保健師の人材育成が重要課題である一方、中堅・管理職層向けの研修機会が不足しています。自治体規模の違いにより、画一的な育成支援が難しいという構造的課題もあります。

そこで、本研究では、小規模町村保健師が直面する課題やニーズを明らかにし、課題解決や支援を得るための小規模町村保健師同士による持続可能な交流プラットフォームの設計を目指します。このプラットフォームは、人材育成支援と自治体間の相互学習を促進し、地域保健活動の質的向上に寄与することを目的としています。

3. 研究方法について

(1) 研究概要

本研究は、小規模町村に勤務する保健師を対象に、質問紙調査およびグループインタビューを実施します。

【質問紙調査】

オンライン情報交換会（2025年12月8日）に参加した小規模町村保健師を対象に、オンラインによる質問紙配付・回収を行います。質問項目は、①勤務年数・所

属・地域規模など基本属性、②実務上の困りごと、③必要とする支援や情報、④インターネット環境やデジタルツールの使用経験、⑤望ましい交流形式・頻度、⑥匿名性に関する希望、⑦関心テーマ等です。分析は、記述統計量で整理し、自由記述については、意味内容毎に類似性に沿った分類を行いカテゴリー化します。

【グループインタビュー】

オンライン情報交換会（2025年12月8日）の最後に調査の目的などを説明し、質問紙回答（オンライン）の最後に協力意向のあるものにオンラインを通して申し出を受けます。

また、共同研究者のネットワークを通じて条件に該当する小規模町村保健師に研究の目的などを説明し協力者を募ります。協力申し出のあった者とインタビューで日程を調整し、グループインタビューを実施します。

インタビューは録音し、逐語録を作成します。逐語録の中から、人材育成において直面する課題やニーズに関する記述をコードとして抽出し、質的分析内容分析の手法を用いてカテゴリー化を行います。

インタビューは、インタビューガイド（資料）に基づいて行います。①現在の業務とその課題、②情報収集・スキルアップの手段、③デジタルツール・オンライン活用状況、④理想的な支援・仕組み像、⑤プラットフォームを継続的に使うために必要な要素について質問します。

（2）研究期間

山口大学大学院医学系研究科保健学専攻生命科学・医学系研究倫理審査委員会（以下、「倫理審査委員会」）承認後～2026年3月31日

（3）研究実施体制

本研究は、次の体制で実施します。

研究代表者：村上祐里香（山口大学大学院医学系研究科地域・老年看護学講座 助教）

分担研究者：牛尾裕子（山口大学大学院医学系研究科地域・老年看護学講座 教授）

本研究は、多機関共同研究である。各研究機関の研究責任者は以下のとおりです。

石川麻衣（群馬大学大学院保健学研究科 准教授）

青木さぎ里（自治医科大学看護学部 講師（へき地保健師協会理事））

太田あゆ美（東京慈恵会医科大学医学部看護学科 助教）

山田洋子（岐阜県立看護大学 教授）

吹田晋（国立保健医療科学院 主任研究官）

研究協力者：宮前美紀（日置市役所市民福祉部福祉課 課長）

4. 研究への参加について

【質問紙調査】

本研究へ参加するかは、決して強制するものではありませんので、ご自身の自由意思でお決めください。参加しない場合でも、一切の不利益はありません。回答には10～15分かかります。無記名の調査であり個人が特定されることはなく、得られたデータは研究目的のみに使用します。

研究参加の同意の有無を、アンケートフォームの最初の項目で確認し、否の場合はそこで回答は終了になります。匿名の調査であり、回答者を特定できないため、回答後は同意の撤回はできず、アンケート提出をもって同意したものと見なします。
参加による経済的負担は生じませんが、謝礼もありませんのでご了承ください。

【グループインタビュー】

本研究へ参加するかは、決して強制するものではありませんので、あなたご自身の自由意思でお決めください。参加しない場合でも、あなたに一切の不利益はありません。研究に協力しないと不利な扱いを受けるのではないかと、気まづくなるのではないかと心配されるかもしれませんが、決してそのようなことはありません。

また、研究が始まった後でも、研究の参加をやめたいときはインタビュー終了後1週間以内に同意撤回書により申し出をお願いします。同意撤回が提出された場合は、グループインタビューデータからあなたのデータを特定して削除し、分析に用いないこととします。十分にご検討いただいた後、この研究に参加いただける場合は、同意書にご自身で署名をお願いします。

参加による経済的負担は生じませんが、謝礼もありませんのでご了承ください。

5. 参加基準について

この研究に参加していただくためには、いくつかの参加の条件があり、これらの条件を満たしている方に、研究への参加をお願いしています。

●研究に参加していただける方の主な条件

- ①人口1万人未満の町村に所属し、常勤として勤務している保健師の方
- ②現在の職位や経験年数を問わず、保健師として勤務している方
- ③オンライン情報交換会(2025年12月8日)に参加した方
- ④本研究の目的を理解し、調査協力に同意していただける方

※保健師資格を有さない職員(例:看護師や事務職で「保健師業務補助」を担う者)は除きます。

6. 参加予定人数について

【質問紙調査】

オンライン情報交換会参加者 80 名の方に参加をお願いする予定です。

【グループインタビュー】

4～5 名程度とし、グループインタビューを行う予定です。

7. 参加することにより予想される効果及び有害事象について

本研究により対象者が直接受ける利益はありません。オンラインでの調査となり、データ通信量を負担していただくことになります。また、質問紙調査では 10～15 分程度、インタビュー調査では 60 分程お時間をいただくため、時間的拘束が生じます。

インタビュー中は、無理には聞き出さず、研究参加者が可能な範囲で自由な気持ちで語れる雰囲気を作るよう配慮します。録画データの漏洩がないよう十分に注意します。

8. 倫理指針の遵守及び個人情報の取り扱いについて

本研究に関係する全ての研究者は、ヘルシンキ宣言（最新版）、及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和 5 年 3 月 27 日一部改正、7 月 1 日施行）に従って実施します。

研究成果を公表する場合も、個人が特定される内容は記載しません。

9. 試料・情報の保管及び廃棄の方法について

本研究に関する資料は、研究代表者の施錠できる研究室において、紙媒体は施錠できるロッカーに、電子データはパスワードを設定し、大学専用の Google ドライブで厳重に保管します。研究で得られたデータの保存期間は、研究の終了について報告する日から 5 年間又は当該研究の結果の最終の公表について報告された日から 3 年間のいずれかの期間の長いものとし、保管期間満了後、Google ドライブに保存されたデータは復元不可能な形で消去し、紙面上のデータはシュレッダーにかけて処理します。

10. 研究に係る資金源及び起こりえる利害の衝突について

本研究は、研究分担者の牛尾裕子（山口大学大学院 医学系研究科 保健学専攻教授）が分担事業者を務める、地域保健総合推進事業「小規模町村保健師人材開発のための活動報告リレー及び交流促進事業費」で実施します。本研究の実施や報告の際に、研究の結果及び結果の解釈に影響を及ぼすような利害の衝突はありません。

11. 研究結果の帰属と結果の公表について

本研究で得られた知的財産権の帰属先は山口大学です。また、本研究の結果は、個人や地域を特定できないようにした上で、地域保健総合推進事業「小規模町村保健師人材開発のための活動報告リレー及び交流促進事業」報告書及び関連学会等で発表する予定です。

12. 試料・情報の二次利用について

本研究で得られた情報を将来別の研究に用いる際は、改めて倫理審査委員会に申請する等の適正な手続きを行います。

13. 試料・情報等の記録の閲覧について

あなたの人権が守られながら、きちんとこの研究が行われているかを確認するために、研究の関係者や倫理審査委員会などの関係者がこの研究で得られたあなたに関する記録などを見ることがあります。しかし、このような場合でも、これら関係者にはあなたのデータであると特定されることはありませんし、関係者には守秘義務が課せられていますので、あなたの情報は守られます。

また、同意書にあなたが署名することにより記録の閲覧について、同意が得られたこととなります。

14. 相談窓口について

この研究について、何かお聞きになりたいこと、心配なことがありましたら、いつでも遠慮なく研究責任者にお尋ねください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報保護や当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究方法に関する資料を閲覧することができます。

研究代表者：村上祐里香(山口大学医学系研究科保健学専攻助教)

〒755-8505 山口県宇部市南小串 1-1-1 TEL/FAX：0836-22-2852

mail：myurika@yamaguchi-u.ac.jp

共同研究者：牛尾裕子（山口大学）、石川麻衣（群馬大学）、青木さぎ里（自治医科大学）、

太田あゆ美（東京慈恵会医科大学）、山田洋子（岐阜県立看護大学）、

吹田晋（国立保健医療科学院）

研究協力者：宮前美紀（日置市役所）

令和 7 年度 地域保健総合推進事業
「小規模町村保健師人材開発のための活動報告リレー及び交流促進事業」
報告書

発行日 令和 8 年 3 月

編集・発行 一般社団法人 日本公衆衛生協会

分担事業者 牛尾 裕子 (山口大学)

〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目 1 番 1 号

TEL : (0836)22-2827

FAX : (0836)22-2827